

「みなとオアシス」を活用した 賑わい創出の推進

令和6年11月29日
国土交通省 港湾局

評価書の要旨

テーマ名	「みなとオアシス」を活用した賑わい創出の推進	担当課 (担当課長名)	港湾局産業港湾課 中川 研造
評価の目的、 必要性	「みなとまちづくり」は、国、港湾管理者、民間事業者が連携して、みなとの資産を最大限活用する必要があるが、広域的な視点からのブランド化、他事例・ベストプラクティスの共有、財政支援を含む制度面の支援といった観点から、国が「みなとオアシス制度」を創設（平成15年）して、支援している。 制度創設から20年が経過し、取り組みが一定程度進んできたことから、これまでの「みなとオアシス」を活用した賑わい創出の取組等について政策レビューを実施し、「みなとオアシス」を活用した、更なる賑わい創出に向けた仕組み等を検討することを目的とする。		
評価対象	「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われ、みなとまちづくりの核となる施設を、施設の設置者からの申請に基づき、国土交通省港湾局長が登録して、各みなとオアシスへ技術面での助言、PR活動や補助制度の活用などの支援をする制度。		
政策の目的	みなとオアシス制度は、みなと周辺の既存ストックを最大限活用しつつ、住民参加により地域の創意工夫を活かした賑わい創出のための取組を支援するものであり、地方活性化や地方創生に資する政策である。		
評価の視点	これまでの「みなとオアシス」における取組状況や実績を整理し、みなとの賑わいの創出に向けた手法や支援策、体制等の課題を確認する。 その際、設置者、運営者、利用者にとって、みなとオアシスの魅力が大きくなり、より賑わい創出につながる制度となるためのポイントを明確にする。		
評価手法	以下の手法により評価を実施する。 ・ みなとオアシス設置者から提出されている「みなとオアシス活動報告書」から各種取組を行う上での課題等を整理し、アンケート項目を検討する。 ・ アンケート及びヒアリング調査により、みなとの賑わいの創出に向けた手法や支援策、体制等の課題を確認する。		
評価結果	アンケート及びヒアリング調査より、みなとオアシス制度が以下の通りみなとを核とした地域の賑わい創出に概ね貢献しているとの評価を得た。 ・ 各みなとオアシスの賑わいを創出する形態として、「地域の学習、観光等による賑わい【観光】」と認識しているみなとオアシスが多い。 ・ みなとオアシスの知名度は低いですが、Sea級グルメ全国大会やイベント等を通じて、みなとオアシスの知名度が徐々に高まっている。 ・ みなとオアシスの指定により、各みなとオアシスを構成する施設間の連携が容易・円滑になり、イベント等の開催が増加する等の効果が見られる。 ・ イベント開催により、みなとオアシスの来訪者数の増加、カフェやキッチンカー等の立地も見られる。 他方、評価を整理し、以下の5つが更なる賑わい創出に向けた課題であるとした。 ↓次ページへ続く		

評価書の要旨

評価結果 (続き)	(1) 登録したメリットやPR効果が感じられない。またみなとオアシスの知名度は非常に低い。 (2) 活動に取り組む運営主体の人員不足、イベント等の賑わい創出に必要な企画の立案や実行を担当する人材の不足。 (3) 資金源について、行政からの交付金、補助金を受けているところが半数以上占めている。また、新たな施設の整備やイベントの活動が必要となった場合、各施設管理者における整備や活動に必要な予算がない。 (4) 複数の構成施設、施設管理者が存在している場合、手続きや調整に時間を要する。用地（港湾緑地）や港湾施設の活動時における使用許認可手続きに時間を要する場合ある。 (5) 災害時に活用可能な構成施設を有する「みなとオアシス」は多く存在するが、訓練等で活用した実績は少ない。
政策への 反映の方向	前項で挙げた5つの課題に対し、それぞれ以下のとおり今後の方向性に沿って必要な方策を検討・実施していく。 (1) 知名度向上、ブランド強化 ・各みなとオアシスの分類分けやベストプラクティスの共有を通じて、各みなとオアシスを磨き上げ ・各地方ブロック協議会の活用による、登録の効果やベストプラクティスの横展開、イベント活動の推進 ・全国イベントの継続的な開催（Sea級グルメ全国大会等） ・HP、SNSや広報誌、メディアを活用した広報 ・自治体における観光施策、まちづくり施策への位置付け、各みなとオアシス運営協議会等への自治体の参画、道の駅や他の観光資源、広域周遊といった連携による取組強化 (2) 人材不足に対する支援の強化 ・みなとまちづくりマイスター等の専門家などの活用 ・各地方ブロック協議会の積極的な活用（再掲） ・民間主体の協議会形式による構成施設の運営、同協議会への自治体の参画による手続き等のスムーズな調整 ・地方整備局等の職員によるイベント等の活動支援 (3) 資金不足に対する支援の強化 ・専門家派遣やベストプラクティスの横展開等によるノウハウの共有等による自立的な運営に向けた支援 ・道の駅の支援メニュー集を参照したみなとオアシス支援メニューの再整理、国から各オアシスへの説明会の開催等 ・地元のニーズに即した支援制度の検討 (4) 関係者間の事務手続きの共通化・簡素化 ・民間主体の協議会形式による構成施設の運営、同協議会への自治体の参画による手続き等のスムーズな調整（再掲） ・関係者間の事務手続きの共通化・簡素化による調整コストの削減 (5) 災害支援機能の強化 ・地域防災計画等へ、みなとオアシスの構成施設やみなとオアシスの防災に関する取組を位置づけることを促進 ・各地方ブロック協議会等を通じた物資・人員輸送の訓練、セミナー等による活用方法の共有化 ・みなとオアシス間の防災時の相互協力体制の構築
第三者の 知見の活用	本政策レビューの実施にあたっては、学識経験者からなる「国土交通省政策評価会」より助言をいただいた。
実施時期	令和6年度

1. 評価の概要

1－1. 評価の目的、必要性	P5
1－2. 対象施策	P6
1－3. 評価の視点	P6
1－4. 評価手法	P7
1－5. 第三者の知見の活用	P8

2. 「みなとオアシス」
の概要

2－1. 対象施策の全体像	P9
2－2. 「みなとオアシス」導入の背景と目的	P10
2－3. 「みなとオアシス」の経緯（沿革）	P11
2－4. 「みなとオアシス」の概要	P12
2－5. 「みなとオアシス」の関係組織とその役割	P13
2－6. 「みなとオアシス」の関係制度（法令、税制、規制等）	P14
2－7. 「みなとオアシス」の関係予算	P15

3. 「みなとオアシス」 の実施状況	3-1. 「みなとオアシス」の実施状況	P16 ~18
	3-2. 「みなとオアシス」の活動状況	P19 ~20
	3-3. 「みなとオアシス」の活動に関する課題等	P21
	3-4. 「みなとオアシス」への支援	P22~26
4. 「みなとオアシス」 の評価	4-1. 評価対象と評価手法	P27
	4-2. アンケート調査及びヒアリング調査結果	P28~47
	4-3. 評価結果	P48~49
5. 今後の方向性	5-1. 知名度向上、ブランド力向上	P50~51
	5-2. 人材不足に対する支援の強化	P52
	5-3. 資金不足に対する支援の強化	P53
	5-4. 関係者間の事務手続きの共通化・簡素化	P54
	5-5. 災害支援機能の強化	P55
参考資料	アンケート調査票	P56

1-1. 評価の目的、必要性

平成14年11月の交通政策審議会の答申「経済社会の変化に対応し、国際競争力の強化、産業の再生、循環型社会の構築などを通じてより良い暮らしを実現する港湾政策のあり方」において、地域が個性ある発展を将来に亘り着実に進めるための施策として「みなとまちづくり」が初めて港湾施策の柱の一つに位置づけられた。

「みなとまちづくり」は、国、港湾管理者、民間事業者が連携して、みなとの資産を最大限活用する必要があるが、広域的な視点からのブランド化、他事例・ベストプラクティスの共有、財政支援を含む制度面の支援といった観点から、国（中国地方整備局及び四国地方整備局）が「みなとオアシス制度」を創設（平成15年）して、各みなとオアシスへの技術面での助言、PR活動や補助制度の活用などの支援をしている。

平成21年10月には、みなとオアシスの相互の情報交換等を行うことにより、みなとオアシスの個性豊かな発展を目指すとともに、あわせて、みなとまちづくりを進めることを目的とした、「みなとオアシス全国協議会」が設立された。

平成23年よりみなとオアシスの「食」をテーマとした取組である「Sea級グルメ全国大会」が、みなとオアシスの知名度向上、利用促進を図る取組として開始された。

平成29年2月には、急増するクルーズ客の受け入れ、防災拠点の形成等の全国的なニーズや課題に対応するため「運営要綱」を策定し、全国統一した定義、機能による取組として、港湾局長が登録する制度改正を行った。

創設から20年が経過し取組が一定程度進んできたことから、これまでの「みなとオアシス」を活用した賑わい創出の取組等について、政策レビューを実施し、「みなとオアシス」を活用した更なる賑わい創出に向けた仕組み等を検討することを目的とする。

1-2. 対象施策

対象施策は以下のとおり。

「みなとオアシス」制度

地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設を国土交通省港湾局が登録して、各みなとオアシスへの技術面での助言、PR活動や補助制度の活用などの支援をする制度。

1-3. 評価の視点

以下の視点から評価を実施する。

- ① これまでの「みなとオアシス」における取組状況や実績を整理し、みなとの賑わいの創出に向けた手法や支援策、体制等の課題を確認する。
- ② その際、設置者、運営者、利用者にとって、みなとオアシスの魅力が大きくなり、より賑わい創出につながる制度となるためのポイントを明確にする。

1-4. 評価手法

以下の評価手法を想定している。

- ①みなとオアシス設置者から提出されている「みなとオアシス活動報告書」から各種取組を行う上での課題等を整理し、アンケート項目を検討する。

分析対象：年間活動報告書（令和5年度）

報告者：みなとオアシス設置者

- ②アンケート及びヒアリング調査により、みなとの賑わいの創出に向けた手法や支援策、体制等の課題を確認する。

1-5. 第三者の知見の活用

本政策レビューの実施に当たっては、学識経験者等からなる「国土交通省政策評価会」より助言をいただく。

【国土交通省政策評価会員】

加藤 浩徳	東京大学大学院工学系研究科 教授(座長)
大串 葉子	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授
鎌田 裕美	一橋大学経営管理研究科 教授
佐藤 主光	一橋大学経済学研究科 教授
白山 真一	宇都宮大学データサイエンス経営学部 教授、公認会計士、中小企業診断士
鈴木 美緒	東海大学建築都市学部 准教授
平田 輝満	茨城大学学術研究院応用理工学野都市システム工学領域 教授
松田 千恵子	東京都立大学経済経営学部 教授

2. 「みなとオアシス」の概要

2-1. 対象施策の全体像

○みなとオアシス導入の背景

- 平成14年11月の交通政策審議会の答申「経済社会の変化に対応し、国際競争力の強化、産業の再生、循環型社会の構築などを通じてより良い暮らしを実現する港湾政策のあり方」において、みなとの資産を最大限に活用し、市民の合意の下で活力のある空間を形成するために幅広い関係者が有機的に連携してまちづくりに取り組む「みなとまちづくり」が初めて港湾施策の柱の一つに位置づけられた。
- この「みなとまちづくり」を具体化させるため、住民参加による地域振興の取組の核となる施設を指定し、広域的な視点からのブランド化、他事例・ベストプラクティスの共有、財政面を含む制度面の支援を行う観点から、国が「みなとオアシス制度」を創設(平成15年)して、支援している。
- 平成21年にみなとオアシスが相互情報交換等を行う「全国協議会」を立ち上げた。
- 平成23年より、みなとオアシスの知名度向上と利用促進を図ることを目的に、「Sea級グルメ全国大会」を開催している。

○みなとオアシスの機能

【必須機能】

- 交流・休憩機能（旅客施設、トイレ、広場など）
- 情報の提供機能（観光案内施設など）

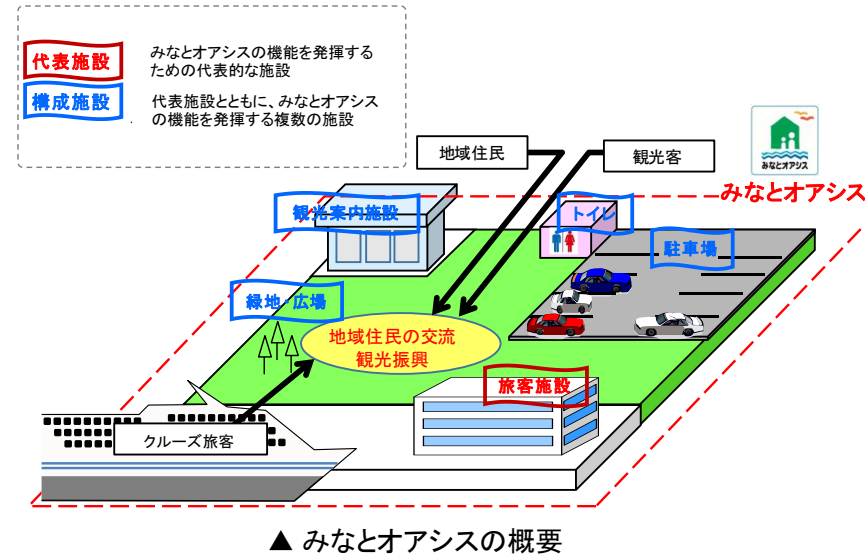
【任意機能】

- 災害支援機能（支援物資備蓄施設など）
- 物販、飲食等の商業機能（レストランなど）

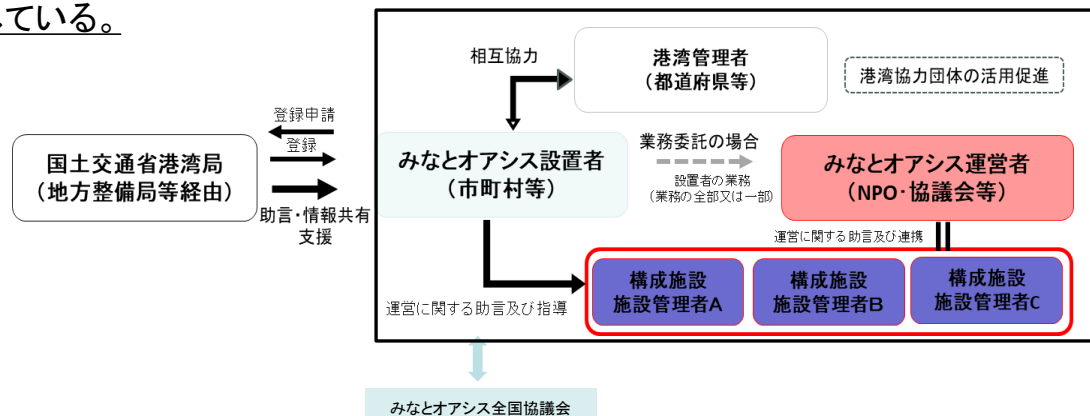
○みなとオアシスの設置者・運営者等の関係主体

- 地方公共団体(港湾管理者含む)
- NPO団体、協議会など

みなとオアシスは、交流・休憩、情報提供、災害時支援、物販、飲食等を提供する複数の施設から構成される。
その規模や構成内容は、各みなとオアシスで異なる。



イベントや広報などの地域の賑わい創出に向けた取組が円滑に行われるよう、NPOや協議会等が運営者となり、各構成施設の管理者と連携している。



▲ みなとオアシスの関係組織とその役割

2-2. 「みなとオアシス」導入の背景と目的

- 平成14年の交通政策審議会答申で、地域が個性ある発展を将来に亘り着実に進めるための施策として「みなとまちづくり」が初めて港湾政策の柱に位置づけられ、それを具体的に推進する制度として、中国・四国地方整備局がみなとオアシス制度を創設(平成15年)した。
- 令和2年8月の交通政策審議会答申で、「みなとオアシス」を災害時に復旧・復興の拠点として機能させ、これをネットワーク化して、広域的な災害対応を可能とする「みなとオアシス防災ネットワーク」の構築が位置づけられた。

	港湾政策ビジョン、答申の名称	賑わい等に関する政策等の概要
平成7年10月	長期港湾政策「大交流時代を支える港湾」	・「親しみのあるウォーターフロント空間の新展開」の施策として、緑地、交流施設、賑わい施設などが相互に連携し面的な広がりをもって一体的に配置された親しみやすい空間を目指すことなどが位置付けられた。
平成14年11月	交通政策審議会(答申)経済社会の変化に対応し、国際競争力の強化、産業の再生、循環型社会の構築などを通じてより良い暮らしを実現する港湾政策のあり方	・物流の効率化、国際的な港湾競争への対応などと並び「<u>みなとまちづくりの推進</u>」が政策の柱として位置づけられた。 ・その中で、「みなと」の資産を最大限に活用し、国も幅広い関係者と連携し、積極的に支援するとされた。
令和2年8月	交通政策審議会(答申)今後の港湾におけるハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災のあり方	・一定の条件を満たす「みなとオアシス」を災害時に復旧・復興の拠点として機能する災害対応型「 <u>みなとオアシス</u> 」として位置づけ、資機材の保管等を行うとともに、これをネットワーク化して、広域的な災害対応を可能とする「 <u>みなとオアシス防災ネットワーク</u> 」の構築が位置づけられた。

2-3. 「みなとオアシス」の経緯(沿革)

1. 平成15年11月20日創設(中国地方整備局・四国地方整備局)

平成14年12月国土交通省交通政策審議会答申で「みなとまちづくりの推進」が政策の柱として初めて位置づけられた。

平成15年11月に「みなとまちづくり」の取組の核となる施設を指定し、活動を支援する制度として、国(中国地方整備局及び四国地方整備局)が「みなとオアシス」制度を創設した。

2. 全国の各地方整備局において「みなとオアシス」を制度を創設

中国地方整備局及び四国地方整備局に引き続き、各地方整備局においても随時「みなとオアシス」制度を創設し、平成21年までに全国展開した。

3. 平成21年10月17日「みなとオアシス全国協議会」設立

みなとオアシス相互の情報交換等を行うことにより、みなとオアシスの個性豊かな発展を目指すとともに、あわせて、みなとまちづくりを進めることを目的として、「みなとオアシス全国協議会」が設立された。

4. 平成29年2月1日全国統一の取組として、港湾局長の認定へ制度改正

急増するクルーズ旅客の受け入れ、防災拠点の形成といった全国的なニーズや課題に対応するため、「みなとオアシス運営要綱」を策定し、全国統一した定義、機能を有した施設とし、登録主体も地方整備局等から港湾局に変更する等の制度改正を行った。

【経緯】

年		認定者	認定数
平成15年	創設	中国地方整備局長 四国地方整備局長	2
平成17年		東北地方整備局長	15
平成18年		北陸地方整備局長	21
平成19年		九州地方整備局長 中部地方整備局長 近畿地方整備局長 北海道開発局長	33
平成20年		関東地方整備局長	43
平成21年		沖縄総合開発局長	86
平成29年	制度改正	港湾局長	99
令和6年		港湾局長	165

※R6.11.1時点

2-4. 「みなとオアシス」の概要（みなとオアシス運営要綱、令和5年9月より）

（定義）

第2条 この要綱で「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設として第5条の規定に基づく登録を受けたものをいう。

（機能及び施設）

第3条 みなとオアシスは、次に掲げる機能を有するものとする。

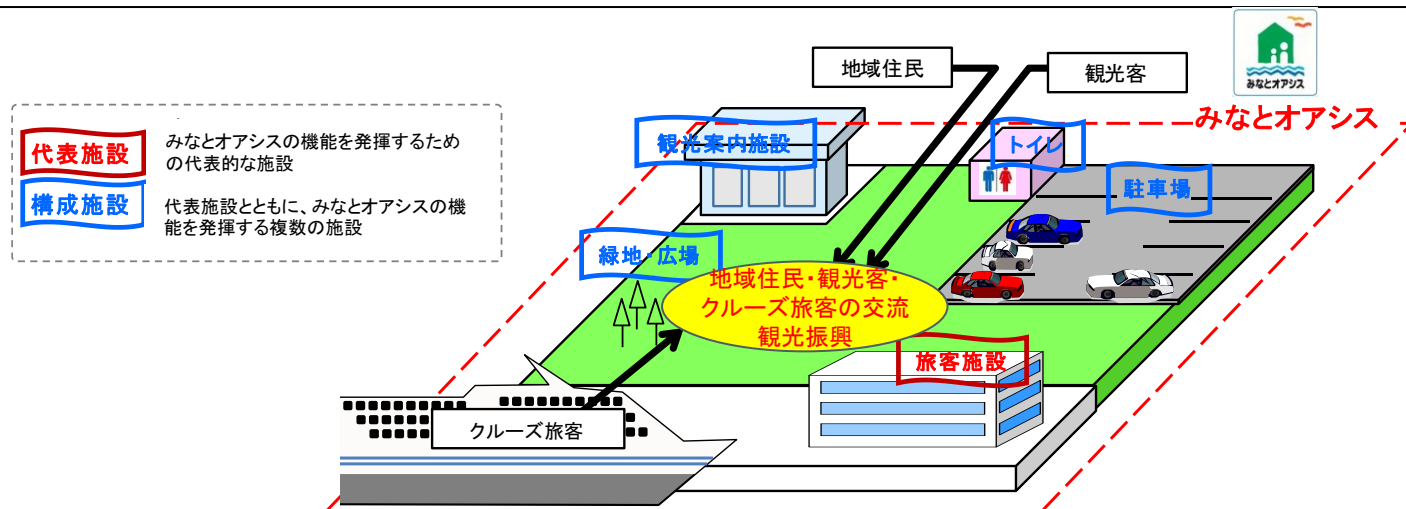
- 一 地域住民、観光客、クルーズ旅客その他の港湾利用者等の交流及び休憩の機能
- 二 地域の観光及び交通に関する情報の提供機能

2 みなとオアシスは、前項各号に掲げるもののほか、次に掲げる機能を有するよう努めるものとする。

- 一 災害支援機能
- 二 物販、飲食等の商業機能

三 第1号及び第2号に掲げるもののほか、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するために必要な機能

3 みなとオアシスは、前項に規定する機能を発揮する代表施設又はこれを含む複数の施設により構成するものとする。



2-5. 「みなとオアシス」の関係組織とその役割(みなとオアシス運営要綱、令和5年9月より)

(設置者の業務)

第9条 設置者は、次に掲げる業務を実施するものとする。

- 一 みなとオアシスの活動の企画
- 二 みなとオアシスの活動の実施に関する助言
- 三 みなとオアシスの活動状況の把握
- 四 みなとオアシスを構成する各施設の運営に関する助言及び指導
- 五 みなとオアシスの広報
- 六 他のみなとオアシスとの連携

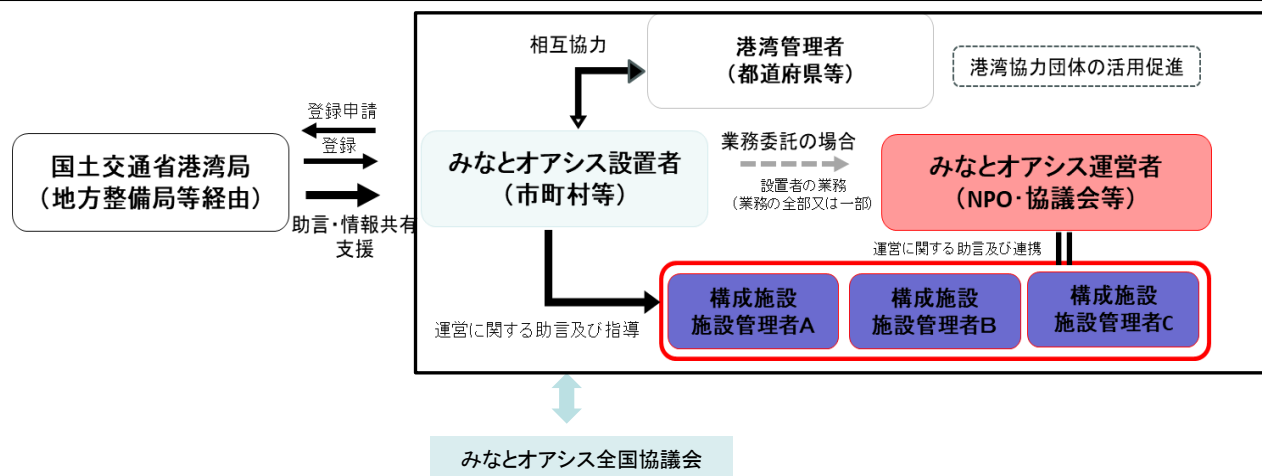
(運営者の任命及び業務の委託)

第10条 設置者は、前条の業務を効率的かつ効果的に実施するため、みなとオアシスの運営者(以下「運営者」という。)を任命し、その業務を委託することができる。

2 前項の運営者は、受託した業務の実施状況について、適宜、設置者に報告するものとする。

(港湾管理者との協力)

第11条 設置者及び運営者は、みなとオアシスが第3条第1項及び第2項に規定する機能を適切に発揮するよう、港湾管理者と相互に協力するものとする。



2-6. 「みなとオアシス」の関係制度（法令、税制、規制等）

- 国の港湾行政の指針であり、港湾管理者が個別の港湾計画等を定める際の指針となる「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」と、港湾等の社会資本整備事業を重点的、効果的かつ効率的に推進するために策定する「社会資本整備重点計画」において、みなとオアシスが次のように位置付けられている。

【港湾法】

第一章の二 港湾計画等

（港湾及び開発保全航路の開発等に関する基本方針）

第三条の二 国土交通大臣は、港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を定めなければならない。

【港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針（令和5年3月）】

（Ⅱ 港湾の配置、機能及び力に関する基本的な事項）

1 特に戦略的取り組む事項に係る基本な事項／（2）観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用／②観光振興及び賑わい創出に資する港湾空間の利活用）

- ・港湾協力団体等との協働による各地域の文化・歴史及び地域の観光資源を活かしたみなとまちづくり並びに住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われるみなとオアシスの活性化の推進

【第5次社会資本整備重点計画（令和3年5月）】

（第3章 計画期間における重点目標、事業の概要）

第2節 個別の重点目標及び事業概要について 6-2: 人を中心に据えたインフラ空間の見直し

「新しい生活様式」に対応したゆとりある豊かな暮らしの実現を図るため、賑わいをはじめとした多様なニーズに応える道路空間の構築や魅力ある水辺空間の創出、「みなと」を核とした魅力ある地域づくりを推進する。

（重点施策の達成状況を測定する代表的な指標（KPI））

[44]〈インフラ利用により地域の賑わいをつくる〉インフラ空間の新たな利活用促進]

「みなと」を核とした魅力ある地域づくり

- ・みなとオアシス登録数 令和元年度 138 → 令和7年度 170

2-7. 「みなとオアシス」の関係予算(「みなとオアシス」に特化したもの)

- 「みなとオアシス」を構成する緑地や浮桟橋など地域住民の交流や観光振興を通じた地域活性化等の拠点となる港湾施設に対して、社会資本整備総合交付金の重点配分が可能となっている。
- 加えて、訪日外国人の受入環境の高度化などの施設整備に対しても、観光庁の補助金等の活用が可能となっている。

社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金における配分の考え方(国土交通省公表)(抜粋)

2 港湾事業

社会資本整備総合交付金における港湾事業においては、インフラ整備を通じた国際競争力強化や地域経済・産業の活力向上を図るという考えの下、以下の事業に特化して策定される整備計画に対して重点配分を行うこととする。

③ 「みなとオアシス」の拠点機能の強化を図る港湾施設の整備

- (1) 地域住民の交流や観光振興を通じた地域活性化等の拠点の機能強化に係るもの
- (2) 「みなとオアシス」の防災機能強化に係るもの

観光庁補助(インバウンド受入環境整備高度化事業)概要

訪日外国人旅行者の周遊の促進・消費の拡大を図るため、ICT等を活用した観光地の受入環境整備を支援する。

■ インバウンド周遊環境の整備



- 観光スポットの多言語化
- 無料Wi-Fiの整備
- AIチャットボットの導入
- トイレの高性能化及び洋式便器の整備
- 観光案内所等の整備・改良
- キャッシュレス化
- ICTを活用したゴミ箱の整備
- ワークション環境の整備
- グランピング環境の整備
- 段差の解消

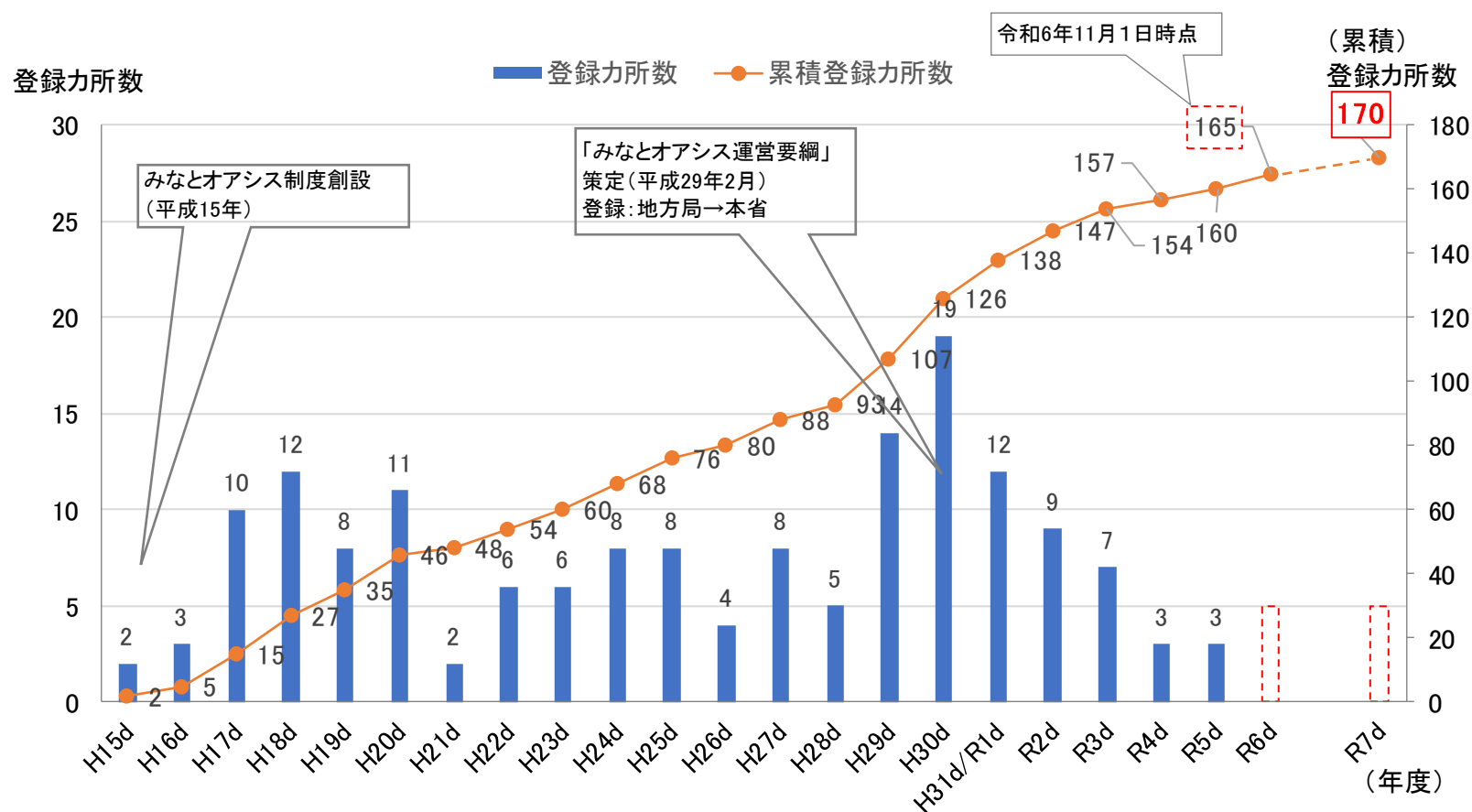
補助対象者	・地方公共団体 ・観光地域づくり法人(DMO)等 (みなとオアシスの設置者・運営者を含む)
補助率	面的整備事業は1/2 拠点機能強化事業は1/3



3-1. 「みなとオアシス」の実施状況

3-1-1. 登録数の推移

- みなとオアシスの登録数は、令和5年度末では160カ所（令和6年11月1日時点で165カ所）である。
- 第5次社会資本整備重点計画の目標値は、令和7年度末時点で、170カ所としている。

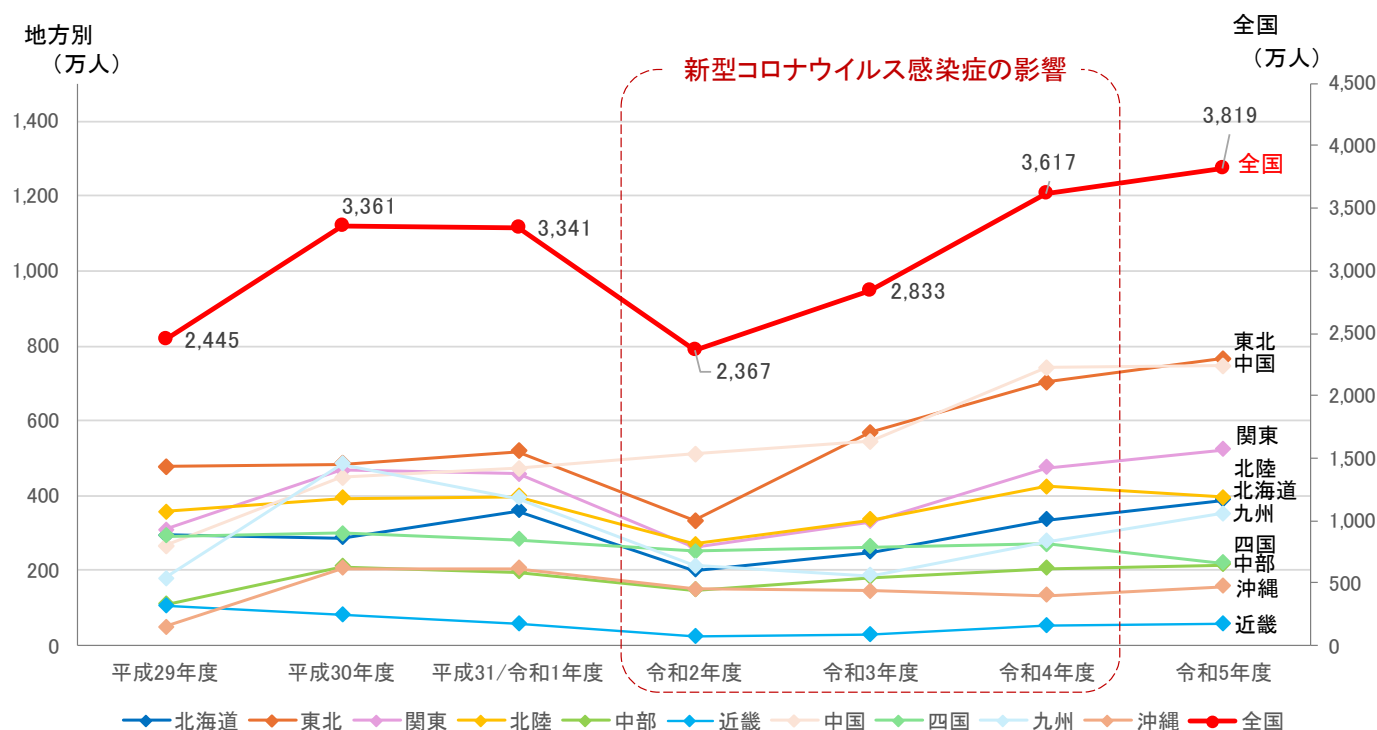


3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-1-2. みなとオアシス入込客数の推移

- みなとオアシスの入込客数(※)は、平成31/令和元年度までは登録力所数の増加とともに増加したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。
- 令和3年度以降は再び増加し、令和5年度には新型コロナウイルス感染症以前の水準を上回る3,800万人となり、一部の地方(沖縄、四国、九州等)を除いて、みなとオアシスへの入込客数は概ね回復傾向にある。

※ 各みなとオアシスを構成する「代表施設」の入込客数を合計



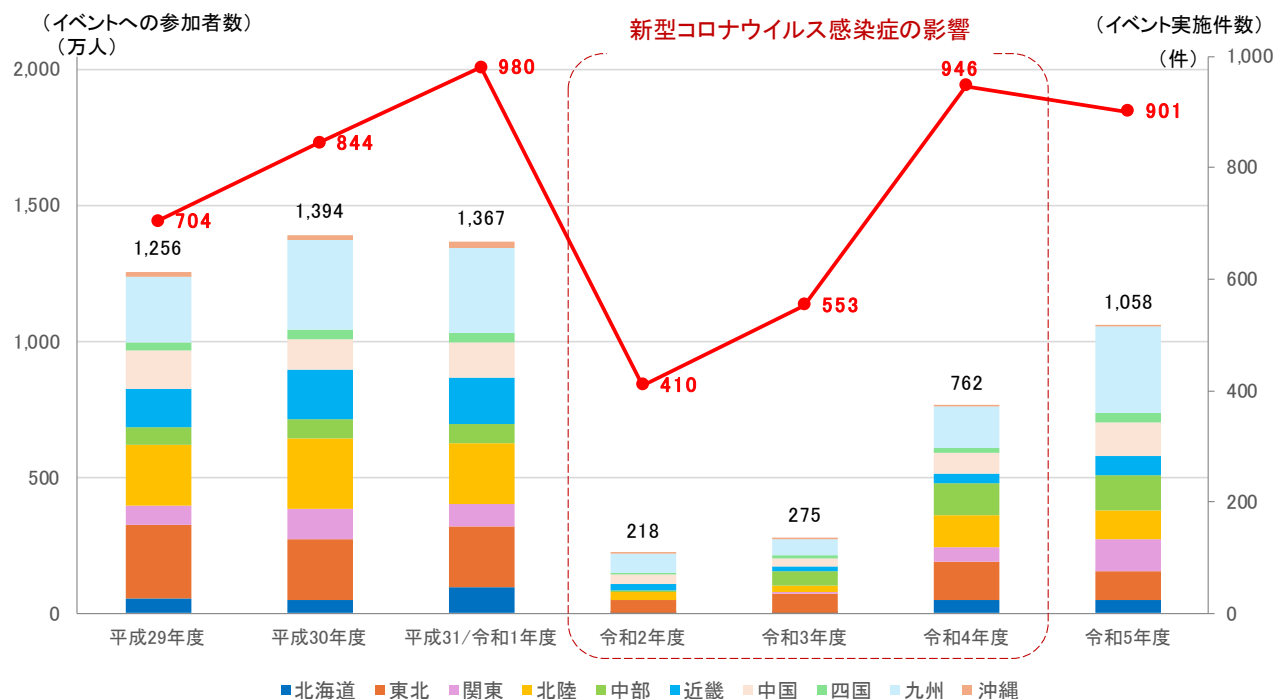
資料: みなとオアシス活動報告書

代表施設のみなとオアシス入込客数の推移

3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-1-3. みなとオアシスにおけるイベント実施状況(件数、参加者数)

- 平成31/令和元年度(新型コロナウイルス感染症以前)では、登録力所数とともに、みなとオアシスで催されるイベント実施件数や参加者数は増加し、イベントによる集客効果が確認できる。
- 令和2～3年度には新型コロナウイルス感染症の影響により、みなとオアシスでイベントをとりやめたため、イベント件数や参加者数が大きく落ち込んだものの、コロナ禍が落ち着いた令和4年度からイベント実施件数と、参加者数も徐々に回復傾向を呈し、令和5年度には、イベント実施件数、参加者数も令和元年度の8～9割の水準まで回復しつつある。



資料: みなとオアシス活動報告書

みなとオアシスにおけるイベント実施状況(件数、参加者数)

※2023年度データが未入手jか所もあり、最終値ではない。

3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-2. 「みなとオアシス」の活動状況

3-2-1. 「みなとオアシス」の活動状況(平常時)

○「みなとオアシス」では、地域住民、観光客、クルーズ旅客等が交流するイベントや見学会が開催されている。また、地域の観光や交通に関する情報提供や物産品販売も行われている。

「食」関係イベントの開催



ホタテステーキ
(みなとオアシスもんべつ)

Sea級グルメ全国大会 (R5 125,000人)
(みなとオアシス沼津)

「花火大会」の開催



稚内みなと南極まつり (R1 15,000人)
(みなとオアシスわかかい)

「スポーツイベント」の開催



ちびっこトライアスロン大会 (R1 149人)
(みなとオアシス奈半利)

「体験学習」の開催



自然観察会 (R4 500人)
(みなとオアシス木更津)

「物資販売」の開催



ひろしまみなとマルシェ (R4 8,200人)
(みなとオアシス広島)

「コンサート」の開催



海の日コンサート (R4 70人)
(みなとオアシス室蘭)

「船舶見学会」の開催



尾道水道さくらクルーズ (H29 2,934人)
(サイクリングポートみなとオアシス尾道)

「フォーラム・セミナー」の開催



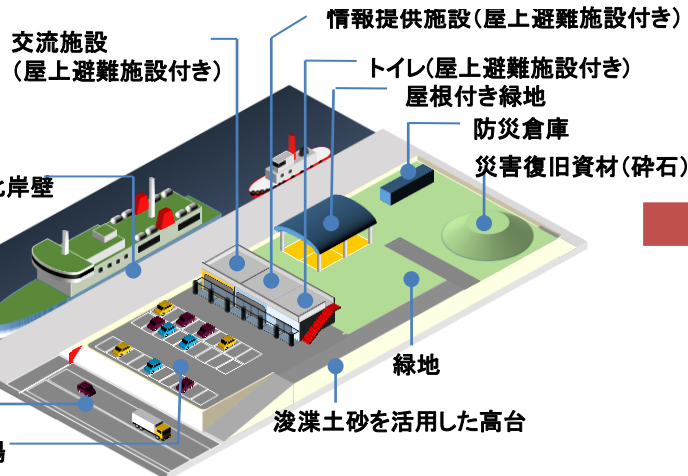
神戸みなとの知育楽座 (R5 531人/5回開催)
(みなとオアシスKOBE)

3-2-2. 「みなとオアシス」の活動状況(災害時)

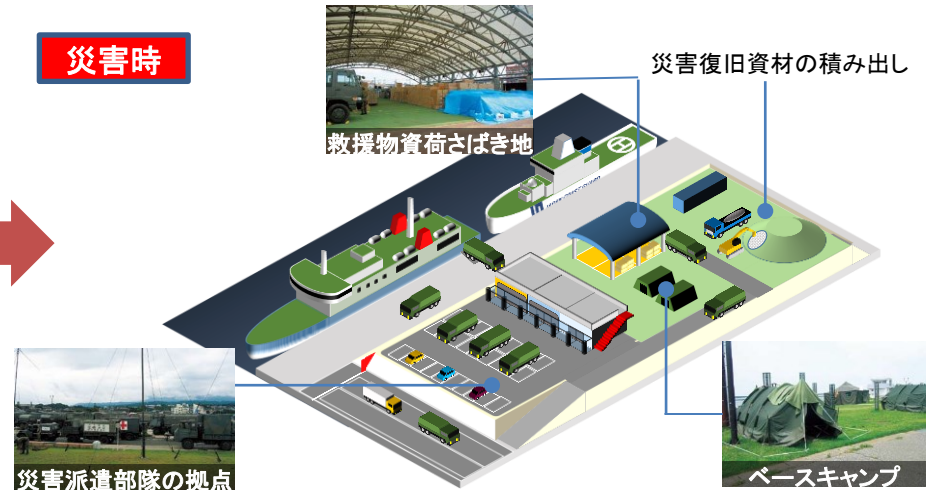
- 令和2年8月交通政策審議会答申「今後の港湾におけるハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災のあり方」において、「みなとオアシス」を災害時に復旧・復興の拠点として機能する災害対応型「みなとオアシス」として位置づけ、資機材の保管等を行うとともに、これをネットワーク化して、広域的な災害対応を可能とする「みなとオアシス防災ネットワーク」の構築が位置づけられた。
- 令和6年能登半島地震では、みなとオアシスが仮設住宅用地やヘリポートなどに活用された。

「みなとオアシス」の災害時の活用イメージ

平常時



災害時



みなとオアシス輪島マリンタウン 構成施設
交流拠点施設 (輪島キリコ会館駐車場) 及びマ
リンタウン競技場
→仮設住宅設置場所として利用



みなとオアシス輪島マリンタウン 構成施設
マリンタウン競技場
→臨時ヘリポートとして利用



みなとオアシス金沢港 構成施設
無量寺ふ頭 ※災害支援機能
→支援物資輸送船接岸



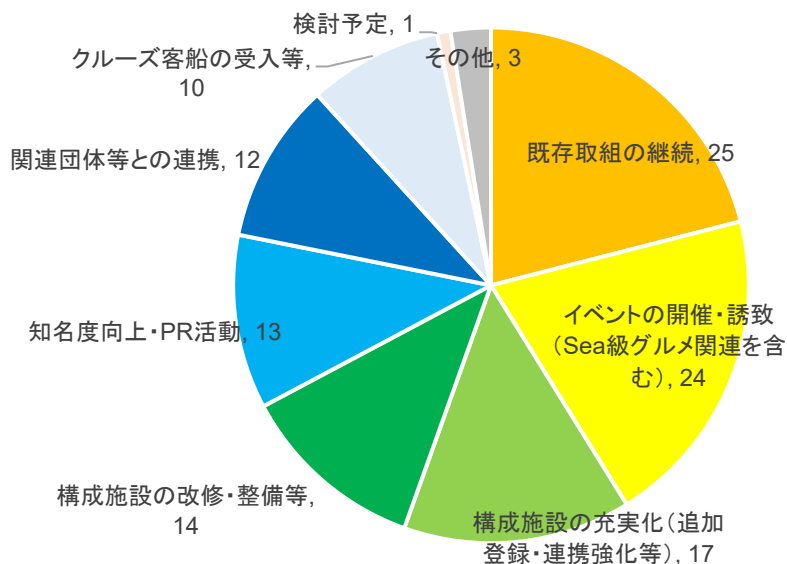
R6年能登半島地震における活用事例

3-3. 「みなとオアシス」の活動に関する課題等

- みなとオアシス年間活動報告書に基づき、各運営者がみなとオアシスにおいて、各種取組を行う上での課題等を把握した。
- 「長期的な構想や注力している取組」としては、既存取組の継続のほか、イベントの開催や構成施設の充実化を挙げる意見が多かった。
- 「課題や要望等」としては、構成施設の改修・維持管理、知名度向上、活動資金の不足などを挙げる意見が多かった。

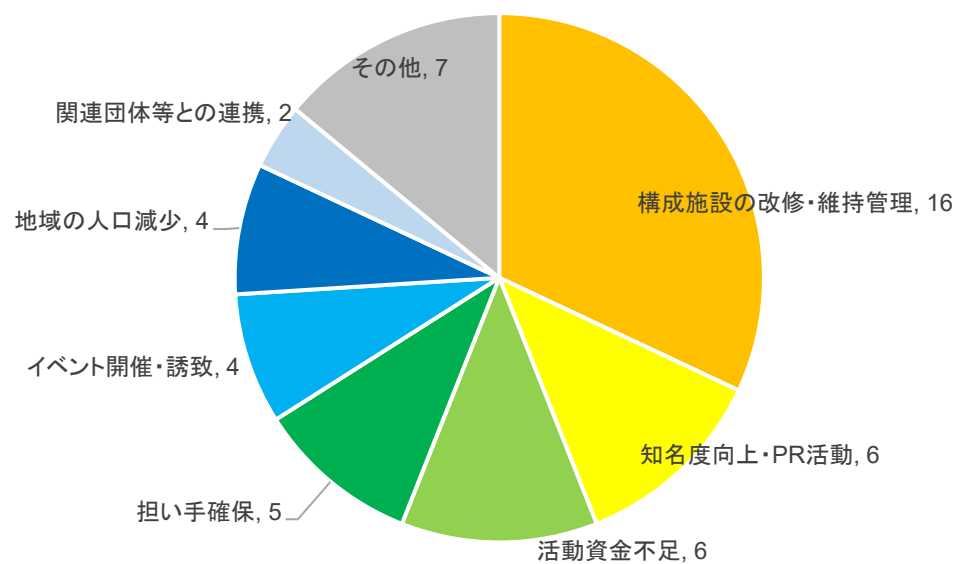
長期的な構想や注力している取組等

(全国) N=91



課題や要望等

(全国) N=41



- ・複数回答あり
- ・回答者：みなとオアシス設置者
- ・回答率：100% (みなとオアシス160箇所)

3-4. 「みなとオアシス」への支援

- 国は、「みなとオアシス」への支援として、設置者や運営者への情報共有、助言を実施している。
- その他、知名度向上やPR活動に対する支援も実施している。
- 「みなとオアシス」を構成する緑地や浮棧橋などの港湾施設や訪日外国人の受入環境の高度化などの整備に対して、国の補助金等の活用が可能となっている。

○ 具体的支援メニュー

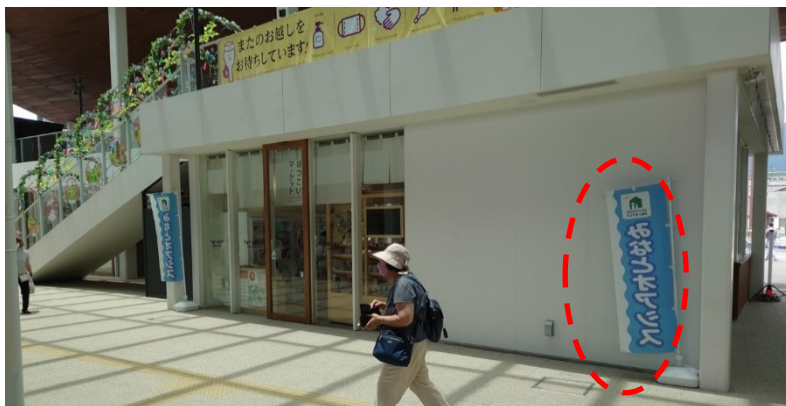
- ① みなとオアシス(設置者・運営者)に対する助言・情報共有・支援
- ② 知名度向上・PR活動
 - ・みなとオアシスの位置、名称等の各種地図への掲載
 - ・みなとオアシス Sea級グルメ全国大会の運営に向けたサポート
- ③ 各種補助制度の活用
みなとオアシスを構成する
 - ・緑地や浮棧橋などの港湾施設
 - ・訪日外国人の受け入れ環境の高度化 など

3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-4-1. 「みなとオアシス」への支援事例(みなとオアシスの標章の利用)

- みなとオアシスでは、構成する主要な施設の見やすい場所に「標章」を掲示している。
- また、標章は、道路案内板への使用も可能となっており、みなとオアシスのPRに活用されている。

構成施設への標章の使用



みなとオアシスみやじま・みやじまぐち



みなとオアシス瀬戸田

道路案内板への使用



みなとオアシス海王丸パーク
(伏木富山港 臨港道路)



みなとオアシスマリンパーク新居浜
(新居浜港 臨港道路)

3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-4-2. 「みなとオアシス」への支援事例(みなとオアシスの位置、名称等の各種地図への掲載)

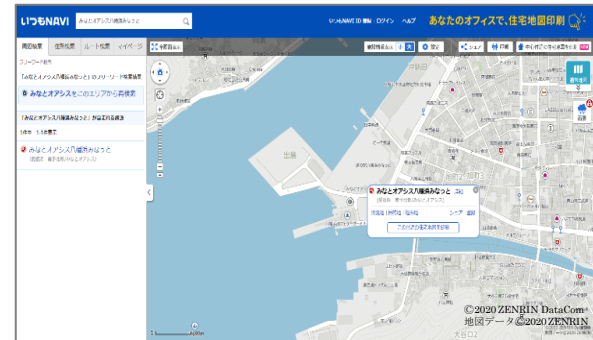
- 国土地理院が提供する「地理院地図」や(株)ゼンリンデータコムが提供する地図情報サイト「いつもNAVI」など、WEB地図データへみなとオアシス情報を追加する等、知名度の向上を行っている。
- 上記により、地図データに登録されることから、その地図データを活用するカーナビや地図アプリに反映され、更なる知名度向上が見込まれる。

国土地理院が提供する「地理院地図」に令和元年5月から
みなとオアシスを構成する位置、名称等を掲載

「地理院地図」 <https://maps.gsi.go.jp/>



(株)ゼンリンデータコムが提供するWEB地図情報サイト
「いつもNAVI」に掲載



Yahooが提供するスマホアプリ「Yahoo!カーナビ」にみ
なとオアシス情報が掲載



3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-4-3. 「みなとオアシス」への支援事例(みなとオアシス Sea級グルメ全国大会の運営に向けたサポート)

- 「みなとオアシスSea級グルメ」は、「みなとオアシス」が位置する地元の食材や地産地消される名産品を用いて作られた、地元の人たちにも親しまれる、水産物を活かした「ご当地グルメ」である。
- 平成23年度より、「みなとオアシス全国協議会」と「開催地における大会運営の責任者である実行委員会」が主催して、「Sea級グルメ」を全国各地から集め、来場者投票でNo1が決定するイベントを開催している。
- これまで多くの来場者があり、地元マスメディアでとりあげられることから、みなとオアシスの認知向上が期待される。

「第15回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in境港」

(開催場所) 鳥取県境港市
(開催日) 令和6年11月9日(土)・10日(日)
(主催) みなとオアシスSea級グルメ全国大会in境港実行委員会、みなとオアシス全国協議会
(出品数) 32品
(来場者) 約5万6千人



当日の現地の様子



「グランプリ」 ホタテステーキ
みなとオアシスもんべつ



出店32団体記念撮影



「2位」浜田アンゴロとドグロの旨み焼売
みなとオアシス浜田



○過去の開催状況

開催場所			優勝メニュー(みなとオアシス)
第1回	H23	みなとオアシス三原(広島県三原市)	たまの温玉めし(みなとオアシス宇野)
第2回	H24	いわき小名浜みなとオアシス(福島県いわき市)	ジャンボ! いわきカジキメンチ(いわき小名浜みなとオアシス)
第3回	H25	みなとオアシス苫小牧(北海道苫小牧市)	じゃこカツ(みなとオアシス八幡浜みなと)
第4回	H25	みなとオアシスカンたん港園(大分県大分市)	たまの温玉めし(みなとオアシス宇野)
第5回	H26	みなとオアシス瀬戸田(広島県尾道市)	多幸のみ焼き(みなとオアシス瀬戸田)
第6回		みなとオアシスみやこ(岩手県宮古市)	真崎焼き(みなとオアシスみやこ)
第7回	H27	みなとオアシスとば(三重県鳥羽市)	サメ春巻き(みなとオアシスとば)
第8回		みなとオアシス宇野(岡山県宇野市)	たまの温玉めし(みなとオアシス宇野)
第9回	H28	みなとオアシスがまごおり(愛知県蒲郡市)	たまの温玉めし(みなとオアシス宇野)
第10回	H29	みなとオアシス魚津(富山県魚津市)	魚津バイ飯(みなとオアシス魚津)
第11回	H30	みなとオアシスもんべつ(北海道紋別市)	ホタテみそ焼きうどん(みなとオアシスもんべつ)
第12回	R1	みなとオアシス佐渡両津(新潟県佐渡市)	ブリ玉丼(みなとオアシス佐渡両津)
第13回	R4	みなとオアシス八幡浜みなと(愛媛県八幡浜市)	ホッキしゅうまい(みなとオアシス苫小牧)
第14回	R5	みなとオアシス沼津(静岡県沼津市)	ホタテステーキ(みなとオアシスもんべつ)
第15回	R6	みなとオアシス境港(鳥取県境港市)	ホタテステーキ(みなとオアシスもんべつ)

※令和2及び3年(開催予定地: みなとオアシス境港(鳥取県境港市))は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となった。

3. 「みなとオアシス」の実施状況

3-4-4. 「みなとオアシス」への支援事例(各種補助制度の適用)



4. 「みなとオアシス」の評価

4-1. 評価対象と評価手法

評価にあたって、まずは既存資料に基づき課題等を整理し、改めてみなとオアシス設置者・運営者へのアンケート及びヒアリング調査調査を行い課題等を確認し、評価結果に反映する。

4-1-1. 評価対象

○ 評価対象は、「みなとオアシス制度」である。

4-1-2. 評価手法（アンケート・ヒアリング調査による分析・評価）

- みなとオアシス設置者から提出されている「みなとオアシス活動報告書」から各種取組を行う上での課題等を整理し、アンケート項目を検討する。
- アンケート及びヒアリング調査により、みなとの賑わいの創出に向けた手法や支援策、体制等の課題を確認する。
- その際、設置者、運営者、利用者にとって、みなとオアシスの魅力が大きくなり、より賑わい創出につながる制度となるためのポイントを明確にする。

（アンケート）

調査時期：令和6年8月13日～8月30日

調査対象：全みなとオアシスの設置者・運営者（令和6年8月末時点みなとオアシス登録箇所：164箇所 ※「因島・上島」1箇所としてカウント）

回答数：165（「因島・上島」を設置者2団体からの回答としてカウント）

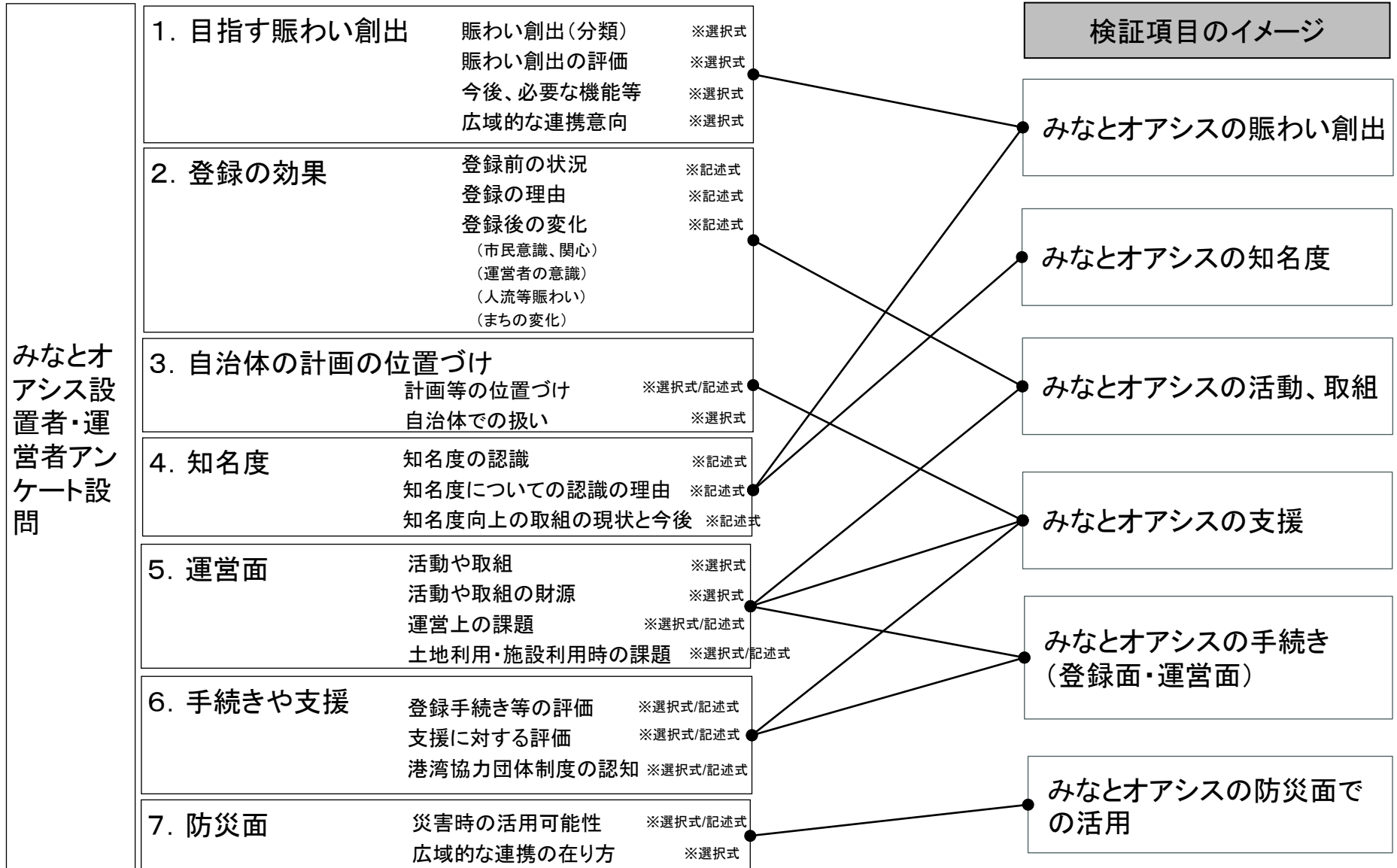
（ヒアリング）

調査時期：令和6年10月15日～11月1日

調査対象：アンケート調査を行ったもののうち、深掘りして回答を確認したいみなとオアシスの設置者・運営者（13箇所）

4-2. アンケート調査及びヒアリング調査結果

調査の全体像(アンケート設問と検証項目)



4-2-1. アンケート調査結果 (1) みなとオアシスの賑わい創出

1) みなとオアシス知名度についての認識

- 『各みなとオアシスの知名度に関する認識』についてアンケートを実施
- 知名度が低いと認識の理由の多くは、“みなとオアシスとしてのPR不足”であり、それ以外は、
 - ・オアシスの名称がもつ具体的なイメージがわきづらい
 - ・道の駅のように名称自体で場所や施設をイメージできるものではない
 - ・一般人は港に深くかわからないため、港の情報が少なく興味がない
 - ・登録が地域にとってどのようなメリットをもたらすのかが分かりづらい 等

設置者等が認識する各みなとオアシスの知名度に関する回答例

知名度についての認識	左記の認識についての理由
みなとオアシスの知名度は低い	みなとオアシスとしての知名度向上よりも各構成施設は、設置目的に添った利活用の促進が求められており、(当みなとオアシスは活動の「きっかけ」づくりとしての役割を果たしている。)
それぞれの構成施設は認知度が高いが、みなとオアシスそのものの名前はあまり知られていないと認識している	例えば、道の駅のように名称自体で場所や施設をイメージできるものではない。構成施設が建物や公園、商業施設など様々)ため、それぞれの施設がみなとオアシスであるという認識が深まらないと思う
以前よりは上がっているが、まだまだ知名度はない。	PR不足
構成施設自体は知られているが、みなとオアシスとしては知られていない。	みなとオアシスとしてのPRが不足しているため。
みなとオアシスの名前が知られていない	みなとオアシスのPRが不足している
みなとオアシスの名称が知られていない。	オアシスという名称が持つ具体的なイメージが湧きづらい。
みなとオアシスの存在があまり知られていない。	・登録が令和2年であり、コロナ禍であったこともあり登録当初からイベント等開催できておらず、令和4年度からイベント等を実施しているため。
みなとオアシスの名前は知られてきていると感じる。	Sea級グルメでの優勝や、年に数回イベント等を行いチラシ等を折込みしているため。
みなとオアシスの名前が知られていない	港と共に発展した街以外では、一般人は港に深く関わらないため、港の情報が少ないし興味を持たないなど
具体的なデータはないが、知名度は非常に低いと感じる。	・みなとオアシスのPRが不足している ・みなとオアシスがどのような施設か、一般市民に伝わりづらい
みなとオアシスの名前が知られていない	異なる用途の施設をみなとオアシスに設定しているため、一般の人から見るとみなとオアシスがどういうものか分かりにくいと思われる。 施設利用者がみなとオアシスであることを知る機会、必要性が少ない、知らなくても施設にアクセスでき、利用できしてしまう。

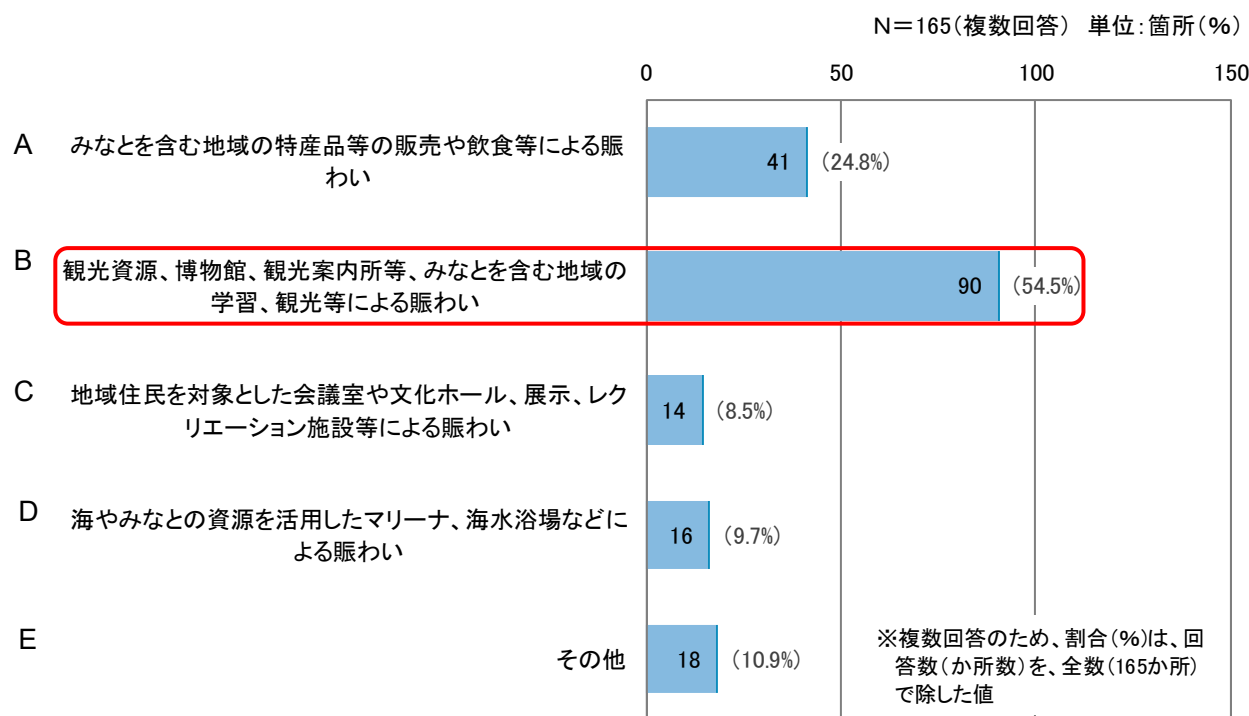
凡例: 知名度が低い回答 知名度が上向いている回答 PR不足に関する回答 知名度が低い理由に関する回答

4-2-1. アンケート調査結果 (1) みなとオアシスの賑わい創出

2) 賑わい創出の形態(分類)

- 『各みなとオアシスの賑わい創出の形態』について以下のA～Eのいずれに該当するのかアンケートを実施
- 「観光資源、博物館、観光案内所等、みなとを含む地域の学習、観光等による賑わい」が90箇所、54.5%と、唯一過半数を超えた。
- 「みなとを含む地域の特産品等の販売や飲食等による賑わい」が41箇所、24.8%と続く。

設置者等が認識する各みなとオアシスの賑わい創出の形態(分類)

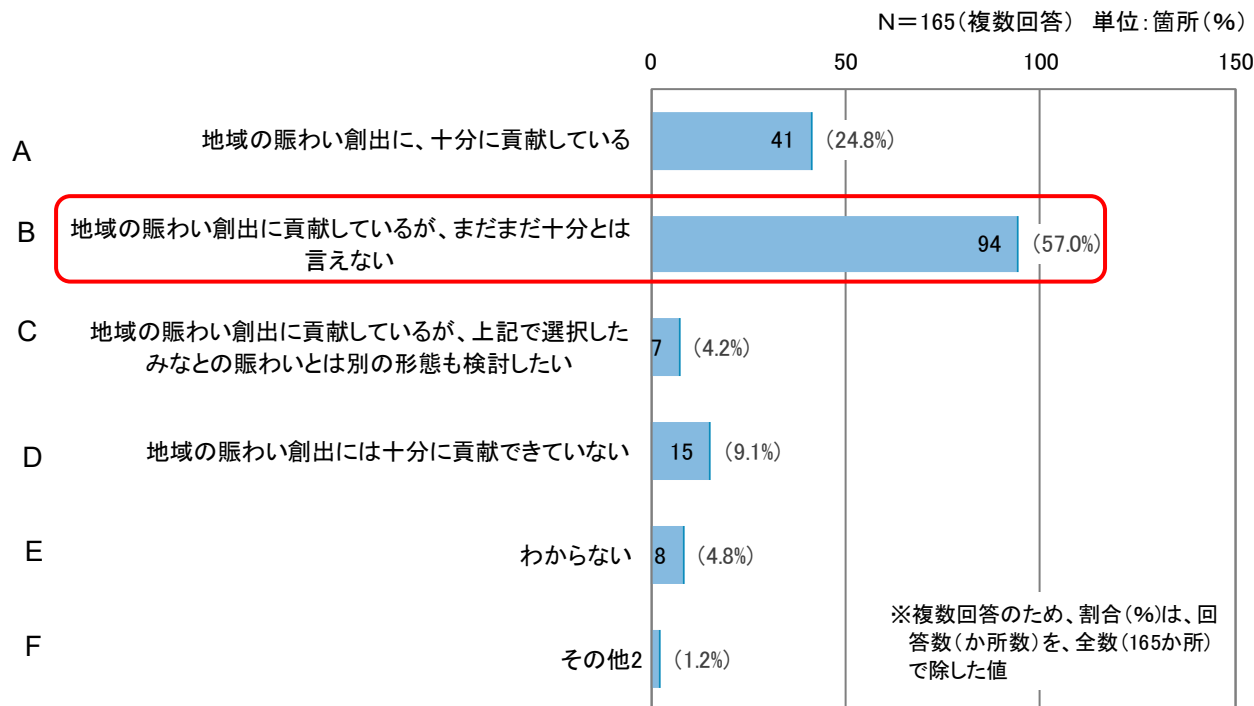


4-2-1. アンケート調査結果 (1) みなとオアシスの賑わい創出

3) 地域への貢献(設置者等の評価)

- 『各みなとオアシスの賑わい創出による地域への貢献(評価)』について以下のA～Fのいずれに該当するのかアンケートを実施
- 「地域の賑わい創出に貢献しているが、まだまだ十分とは言えない」が94箇所、57%と、唯一過半数を超えている。
- 「地域の賑わい創出に、十分に貢献している」が41箇所、24.8%、「地域の賑わい創出に貢献しているが、上記で選択したみなとの賑わいとは別の形態も検討したい」7箇所、4.2%。
- よって、8割以上のみなとオアシスでは、地域の賑わい創出に貢献していると認識している。
- 「地域の賑わい創出には十分に貢献できていない」は15箇所、9.1%。

設置者等が認識するみなとオアシスの賑わい創出による地域への貢献



4. 「みなとオアシス」の評価

4-2-1. アンケート調査結果 (2) みなとオアシスの知名度

1) 知名度向上の取組と今後の取組

- 『各みなとオアシスにおける知名度向上の現状と今後の取組』についてアンケートを実施
- 知名度向上のために取り組んでいることは、「標章(シール)の貼付」、「登録認証の貼付」、「幟、看板、案内板の設置」、「ホームページの設置あるいは掲載」、「パンフレット等の作成、配布」、「みなとオアシスの名のイベントの実施とイベント時の配架(陳列)」に取り組んでいる。

みなとオアシス知名度向上の現状と今後の取組の回答例

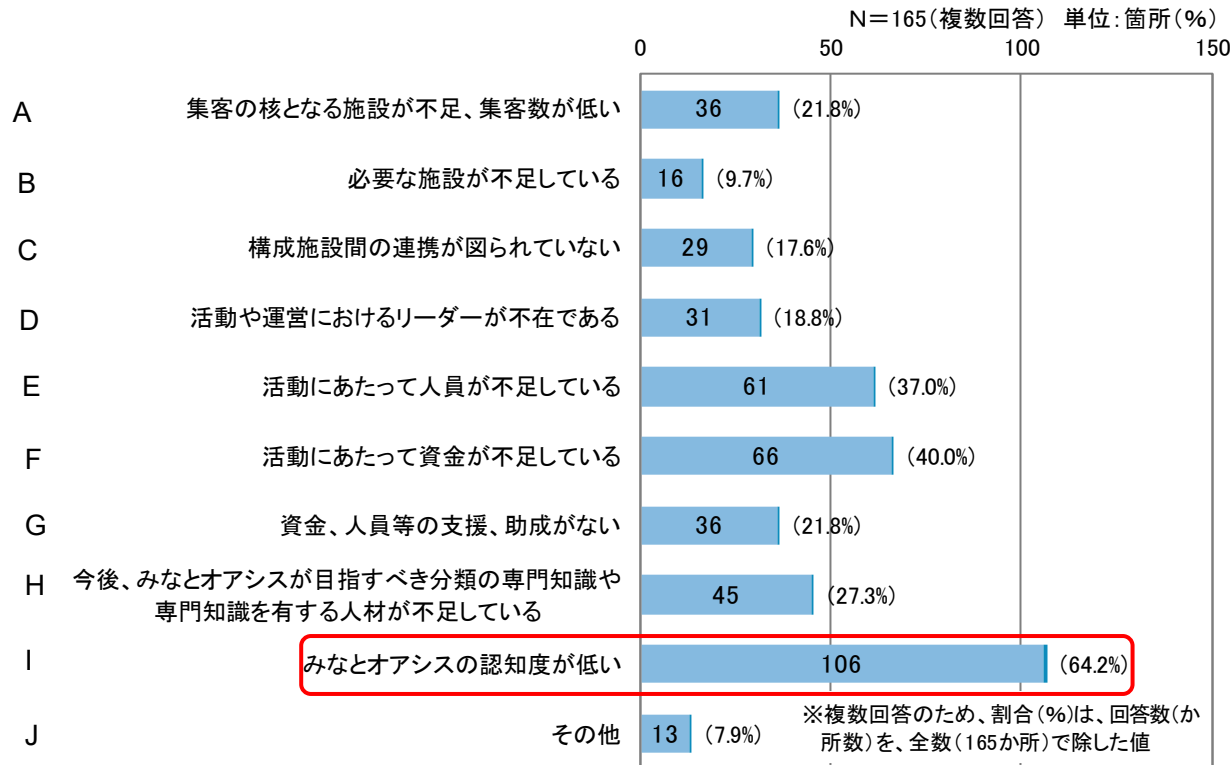
知名度向上のために取り組んでいること	今後、知名度向上のために取り組むこと
みなとオアシス登録認証の貼付 みなとオアシスの看板、案内板の設置 みなとオアシス運営協議会の主催事業の実施	地道な活動の継続
構成施設におけるピンバッジの販売、パンフレット等の作成配布など	現在取り組んでいることの継続と、イベントの積極的な展開
みなとオアシス標章の貼付 幟、看板、案内板の設置	Sea級グルメのご当地化
みなとオアシス標章(シール)の貼付。	みなとオアシス標章などを各種媒体に掲載し、露出を増やす。
みなとオアシス標章(シール)の貼付 みなとオアシスの案内標識の設置	検討中
クルーズ船寄港時に、岸壁にてみなとオアシスの幟を設置 ・みなとオアシス協議会Face bookでの活動PR ・他団体主催のイベント等への協力による知名度向上	左記の取り組みをさらに拡充していく
・みなとオアシス標章(シール)の貼付 ・みなとオアシス登録認証の貼付 ・みなとオアシスの幟、看板、案内板の設置 ・市HPにみなとオアシスのページを作成 ・パンフレット、チラシの作成と配布 ・みなとオアシス名のイベントの実施 ・管内のオアシスと連携したグッズの販売 ・みなとオアシスSea級グルメの登録	Sea級グルメのPR
みなとオアシスの看板設置 イベント時のチラシの作成、折込 イベントの実施	イベントチラシのみなとオアシスの強調

4-2-1. アンケート調査結果 (2) みなとオアシスの知名度

2) 運営上の課題

- 『各みなとオアシスにおける運営上の課題』について以下のA～Jのいずれに該当するのかアンケートを実施
- みなとオアシスの運営上の課題では、「みなとオアシスの認知度が低い」が最も多い。

各みなとオアシスにおける運営上の課題



4-2-1. アンケート調査結果 (2) みなとオアシスの知名度

3) みなとオアシス知名度についての認識【再掲】

- 『各みなとオアシスの知名度に関する認識』についてアンケートを実施
- みなとオアシス登録後について、地域住民や市民等のみなとやみなとまちづくりなどに対する意識については、“名前が知られつつある”、“イベントを通じて地域住民の認知度はある”、“知名度が向上しつつある”との肯定的意見もみられる。
- 全体的には、“知名度が低い”、“名前が知られていない”等、知名度がない、との意見が多数を占めている。

設置者等が認識する各みなとオアシスの知名度に関する回答例

知名度についての認識	左記の認識についての理由
みなとオアシスの知名度は低い	みなとオアシスとしての知名度向上よりも各構成施設は、設置目的に添った利活用の促進が求められており、(当みなとオアシスは活動の「きっかけ」づくりとしての役割を果たしている。)
それぞれの構成施設は認知度が高いが、みなとオアシスそのものの名前はあまり知られていないと認識している	例えば、道の駅のように名称自体で場所や施設をイメージできるものではない(構成施設が建物や公園、商業施設など様々)ため、それぞれの施設がみなとオアシスであるという認識が深まらないと思う
以前よりは上がっているが、まだまだ知名度はない。	PR不足
構成施設自体は知られているが、みなとオアシスとしては知られていない。	みなとオアシスとしてのPRが不足しているため。
みなとオアシスの名前が知られていない	みなとオアシスのPRが不足している
みなとオアシスの名称が知られていない。	オアシスという名称が持つ具体的なイメージが湧きづらい。
・みなとオアシスるものの存在があまり知られていない。	・登録が令和2年であり、コロナ禍であったこともあり登録当初からイベント等開催できておらず、令和4年度からイベント等を実施しているため。
みなとオアシスの名前は知られてきていると感じる。	Sea級グルメでの優勝や、年に数回イベント等を行いチラシ等を折込みしているため。
みなとオアシスの名前が知られていない	港と共に発展した街以外では、一般人は港に深く関わらないため、港の情報が少ないし興味を持たないなど
みなとオアシスであることがあまり認知されていない。	近年、みなとオアシス運営協議会が開催できておらず、活動も少ないため。
みなとオアシスの名前が知られていない。	みなとオアシスのPRが不足している

4-2-1. アンケート調査結果 (3) みなとオアシスの活動・取組

1) みなとオアシスの主な活動、取組

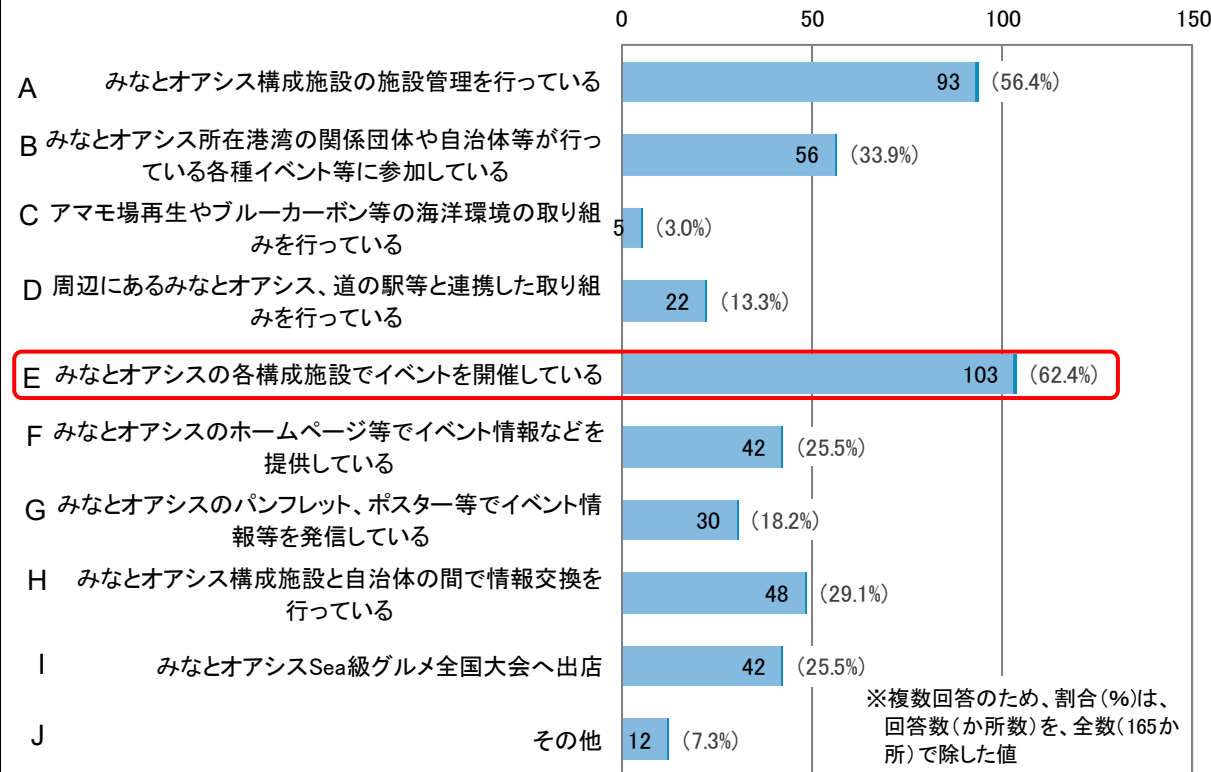
● 『各みなとオアシスの主な活動、取組』の実施状況について以下のA～Jのいずれに該当するのかアンケートを実施

○ 「みなとオアシスの各構成施設でイベントを開催している」が103箇所、62.4%、「みなとオアシス構成施設の施設管理を行っている」が93箇所、56.4%の2つの活動等が抜きんでている。

○ 「みなとオアシス所在港湾の関係団体や自治体等が行っている各種イベント等に参加している」が56箇所、33.9%、「みなとオアシス構成施設と自治体の間で情報交換を行っている」が48箇所、29.1%、「みなとオアシスのホームページ等でイベント情報などを提供している」、「みなとオアシスSea級グルメ全国大会へ出店」がそれぞれ42箇所、25.5%と続いている。

各みなとオアシスの主な活動、取組の実施状況

N=165(複数回答) 単位: 箇所(%)



4-2-1. アンケート調査結果 (3) みなとオアシスの活動・取組

2) みなとオアシス登録の効果(イベント等の提供側の認識)

- 『各みなとオアシス登録の効果(イベント等の提供側の認識)』についてアンケートを実施
- みなとオアシス登録後、イベント等を企画実施して、市民などに提供する企画実施側の意識についてみると、イベントを共同して実施することで、設置者や構成団体等との情報交換や、コミュニケーションがとりやすくなった。また、このことを通じてみなとまちづくり等の意識が高まった等とする回答がみられる。

各みなとオアシス登録の効果(イベント等の提供側の認識)に関する回答例

イベント企画、提供側の意識について
設置者の意識は高まっている。イベント企画者との連携も強くなっている。
みなとオアシスの活動を通じて、構成団体とのコミュニケーションが取りやすくなった
協議会員同士の連携、つながりによる情報交換や人的支援などにより、イベント活動の充実を図ることができた。
構成施設とその周辺では、多くのイベントが行われている。
周辺の再開発事業は、令和7年度完成を目標に進めており、現在みなとオアシスの活動は限定的であるため、完成後に状況を確認していきたい。
みなとオアシス協議会の活動を通じて、会員のみなとまちづくりに関する意識等が高まってきている。
みなとと関連付けたイベント実施により、賑わいが創出されていると感じている。
構成施設間同志のコミュニケーションが取りやすくなった
変化は特に感じられない
他の港との交流を図っている。(フェリー航路先である港へイベント時の出張販売の実施等)
構成施設間同志のコミュニケーションが取りやすくなった
イベントを通じて、協力していただいた団体、事業者等のみなとまちづくりに対する意識が高まったと感じた。
みなとオアシスの活動やイベントを通じて、協議会の意識が高まったこと。
構成施設間で定期的に意見交換する機会が増えたことで、みなとまちづくりへの関心が深った感がある
登録時から特に変化はない。

凡例: ■ みなとオアシス登録による効果(イベント等の提供側の意識等)に関する回答 赤字 登録による変化がないとする回答

4-2-1. アンケート調査結果 (3)みなとオアシスの活動・取組

3)みなとオアシス登録による効果(まちの変化等)

- 『各みなとオアシス登録による効果(まちの変化等)』についてアンケートを実施
- みなとオアシス登録後、イベント実施やそれによる人流等の増加、賑わい創出等によって、「カフェや飲食店、スーパーやスポーツショップ等の商業施設、宿泊施設、公園などが立地、整備されてきた」、「施設の立地だけでなく、案内看板、無料wi-fi等も設置されてきた」、「イベント等も行われ、キッチンカー等も出店するようになった」等があげられた。

設置者等が認識する各みなとオアシス登録による効果(まちの変化等)に関する回答例

みなとまち周辺地域の変化
みなとオアシス登録に伴う周辺地域の変化は感じられない
構成施設における集客イベント(音楽イベント等)の開催が行われた
多言語の案内看板による情報提供や、無料wi-fiの設置
観光地として、商業施設が建ち並び、賑わいを見せている。
周辺の再開発事業は、令和7年度完成を目標に進めており、現在みなとオアシスの活動は限定的であるため、完成後に状況を確認していきたい。
特段変化は感じていない。
管内のオアシスが連携し、みなとオアシス関連グッズを販売している。
港周辺に簡易宿泊施設が設けられた。
特になし
みなとから少し離れた構成施設において、みなとの魅力を紹介する掲示物を設置。
カフェの増加
港を中心に、カフェが出店するようになったほか、夏にはキッチンカーが何台か出店するようになった。
みなとオアシスエリアが整備されことで各種商業施設立地してきた
オアシスで連携イベントを開催することで、中心商店街との連携も強化され、商店街への訪れる地域住民も少なからず多くなったと感じる。

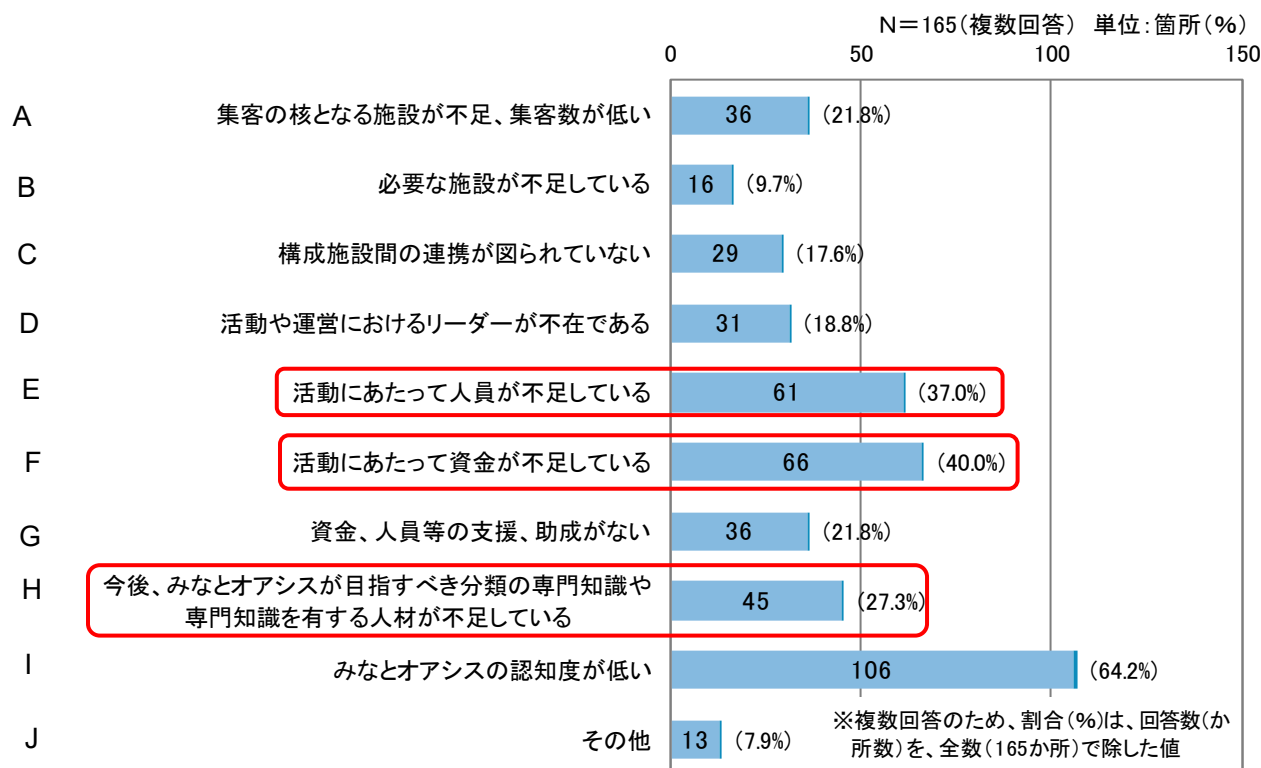
凡例: みなとオアシス登録による効果(まちの変化等)に関する回答 赤字 登録による変化がないとする回答

4-2-1. アンケート調査結果 (3) みなとオアシスの活動・取組

4) みなとオアシスの運営上の課題【再掲】

- 『各みなとオアシスにおける運営上の課題』について以下のA～Jのいずれに該当するのかアンケートを実施
- みなとオアシスの運営上の課題では、「活動にあたっての資金が不足している」66箇所、40%、「活動にあたって人員が不足している」61箇所、37%となっており、「専門知識を有する人材が不足している」45箇所、27.3%となっており、活動等における資金不足、人員不足を指摘している。

各みなとオアシスにおける運営上の課題



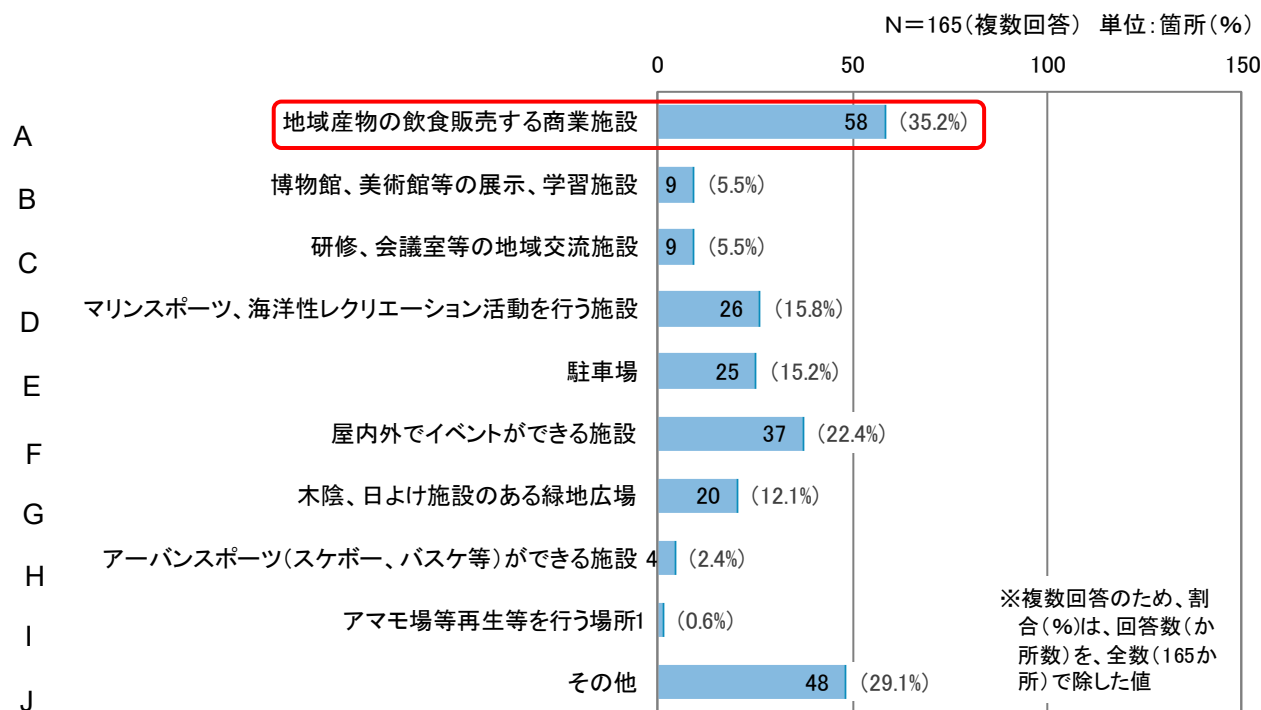
4-2-1. アンケート調査結果 (4) みなとオアシスの支援

1) 今後、目指す賑わい創出に向けて必要な施設、機能

● 『今後、各みなとオアシスにおける賑わい創出の姿に向けて必要な施設、機能』について以下のA～Jのいずれに該当するのかアンケートを実施

○ 今後、目指すべき賑わい創出の姿に向けて、必要な機能や施設についてみると、「地域産物の飲食販売する商業施設」が58箇所、35.2%、「屋内外でイベントができる施設」が37箇所、22.4%、「マリンスポーツ、海洋性レクリエーション活動を行う施設」が26箇所、15.8%、「駐車場」が25箇所、15.2%と続いている。

今後、各みなとオアシスにおける賑わい創出の姿に向けて必要な施設、機能

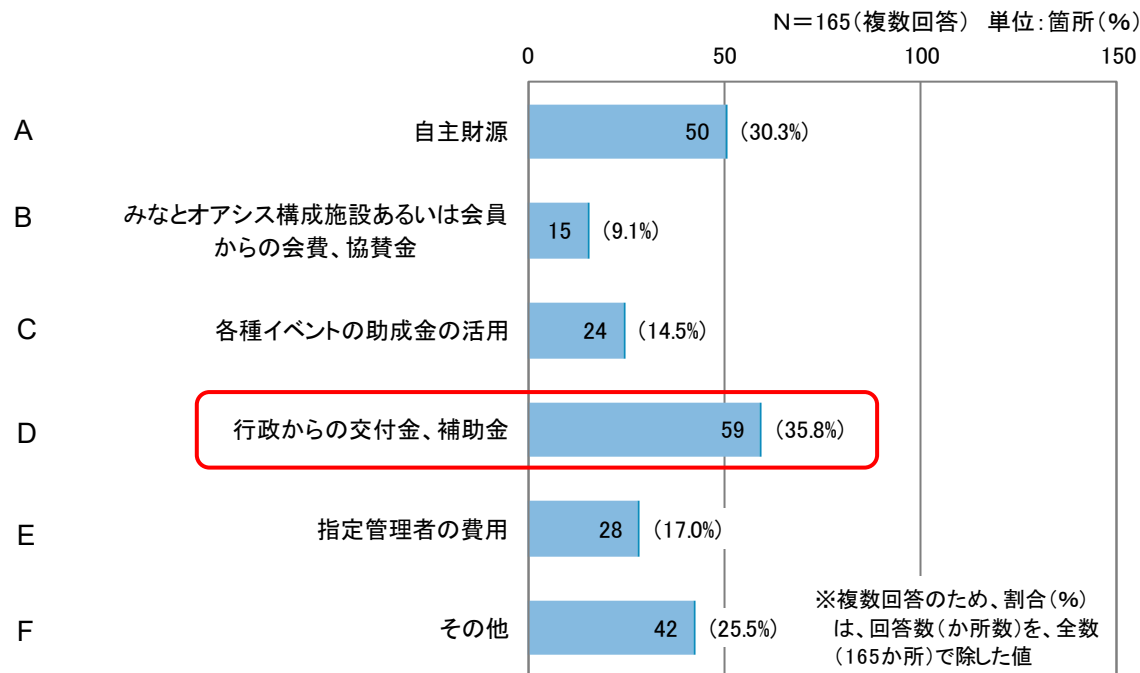


4-2-1. アンケート調査結果 (4)みなとオアシスの支援

2) みなとオアシスの活動、取組の財源

- 『各みなとオアシスの活動、取組の財源』について以下のA～Fのいずれに該当するのかアンケートを実施
- みなとオアシスの活動、取組についての資金源についてみると、最も多いのは、「行政からの交付金、補助金」が59箇所、35.8%、次いで、「自主財源」が50箇所、30.3%、を占めている。

各みなとオアシスの活動、取組の財源



4. 「みなとオアシス」の評価

4-2-1. アンケート調査結果 (4) みなとオアシスの支援

3) 支援等で強化すべき事項

- 『登録後の支援等で強化すべき事項』についてアンケートを実施
- 登録後の支援については、「施設の整備」や「施設の維持管理」などに係る支援を回答する所が多い。
- 次いで、イベント等に活動や取組にかかる財政的支援であり、上記とともに、支援に関しては資金面を強化すべきとの回答が多い。

登録後の支援等で強化すべき事項の回答例

支援等で強化すべき事項
オアシス運営活動にかかる金銭的な支援
助成金等財源の支援
施設整備への支援
助成金制度の支援
施設の整備・維持に関する支援
施設整備・修繕・事業に関する定額または高率で使い勝手の良い補助制度
みなとオアシスとしてのネームバリューの強化(道の駅のような目的地となる施設としての周知)
登録時の状況が残っていない
知名度向上のためのイベントへの財政的支援
駐車場の一時使用等の手続きの簡素、施設整備への支援
施設整備への支援
施設整備やイベント実施等に対する補助メニューの創設
支援内容をわかりやすく周知する。
国が実施する積極的なPR
魚介類等の特産品を他自治体のみなとオアシスイベントでも販売するなどの連携支援。
施設整備への支援、及び運営への財政的支援

凡例： 赤字 施設整備等に関する回答 青字 手続き、PR、周知等のソフトな取組に関する回答 橙字 助成金等の財政的支援に関する回答

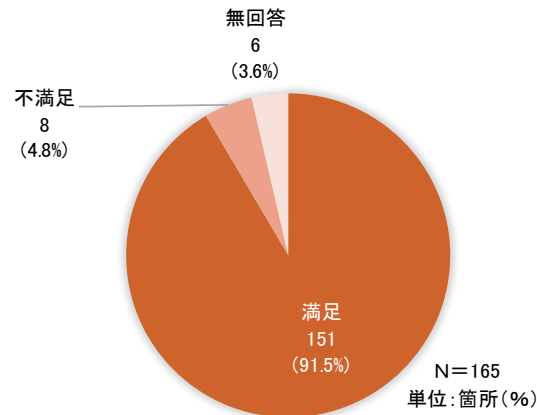
4-2-1. アンケート調査結果 (4)みなとオアシスの支援

4)現状の支援に対する評価

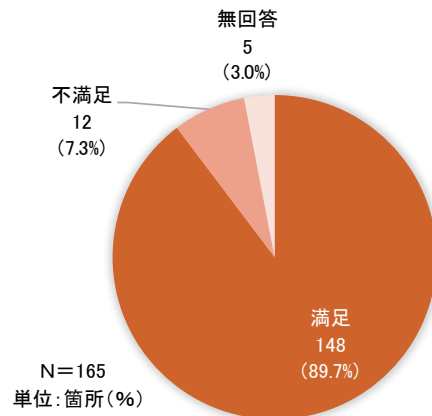
- 『現状の各みなとオアシスにおける支援の評価』についてアンケートを実施
- みなとオアシスの現状の支援である、「商標及び標章の無償使用」、「ホームページや広報誌への掲載」、「各種イベントでの紹介等の積極的PR」については、概ね満足としている。

現状の各みなとオアシスにおける支援の評価

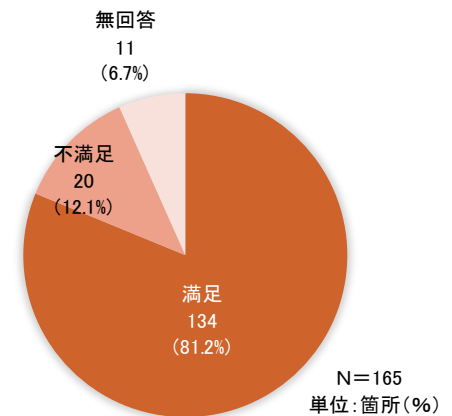
商標及び標章の無償使用



ホームページや広報誌への掲載



各種イベントでの紹介等の積極的PR

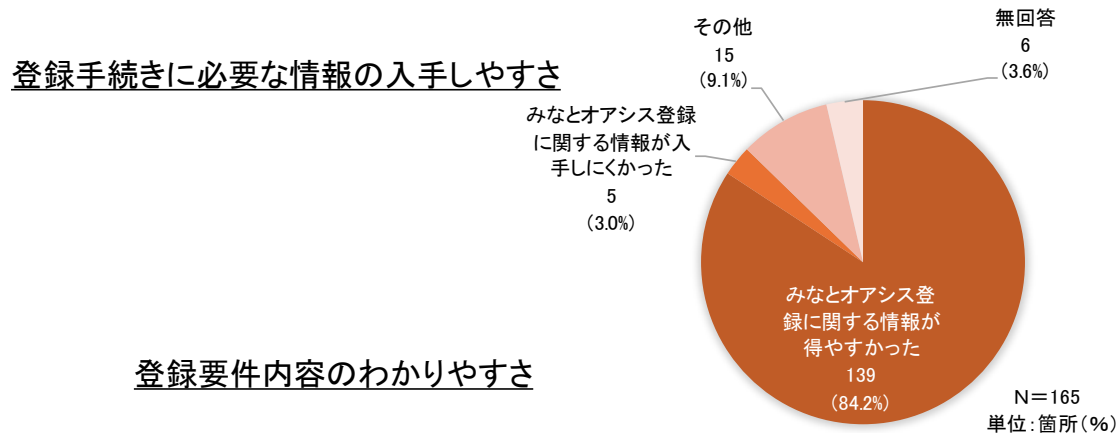


4-2-1. アンケート調査結果 (5) みなとオアシスの手続き(登録面、使用手続き面)

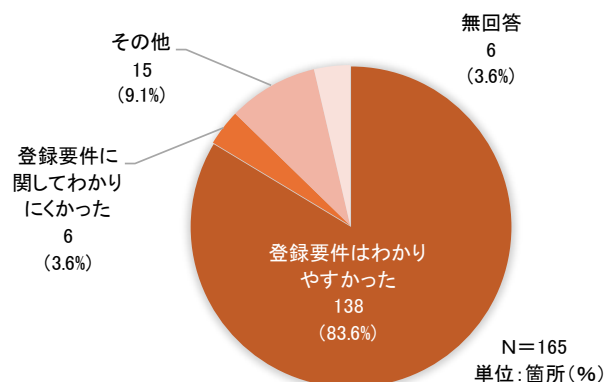
1) 現状の登録手続きに対する評価

- 『現状の各みなとオアシスの登録面の評価』についてアンケートを実施
- みなとオアシスの登録にあたって、「登録手続きに必要な情報の入手しやすさ」、「登録要件内容のわかりやすさ」、「みなとオアシスの登録までの流れ」については、概ね問題はなかった。

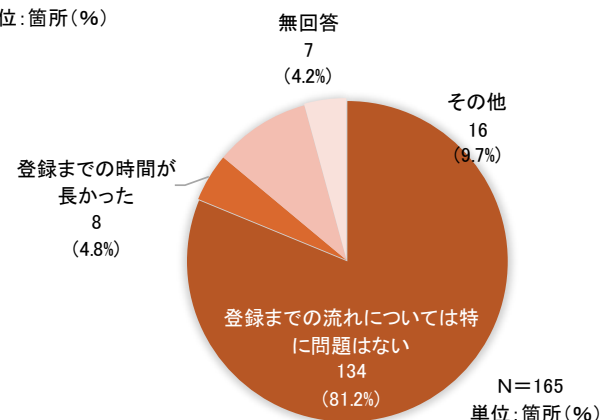
現状の各みなとオアシスの登録面の評価



登録要件内容のわかりやすさ



登録の流れ



4-2-1. アンケート調査結果 (5) みなとオアシスの手続き(登録面、使用手続き面)

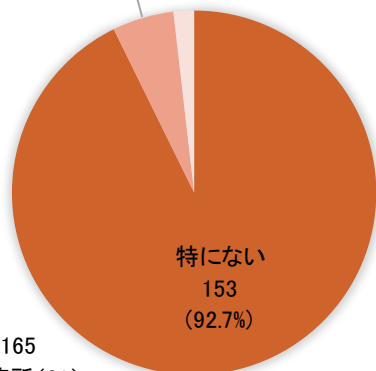
2) 土地利用・施設利用時の手続き等の課題

- 『土地利用・施設利用時の手続き等の課題』についてアンケートを実施
- 土地・施設利用者との手続き等についての課題についてみると、「特になし」とする回答が153箇所、92.7%と、ほとんどのみなとオアシスで問題ない、としている。
- しかし、「手続きや実際の利用時に不自由さ、煩雑さがあった」と回答のあった内容については、港湾管理者や県有施設等の使用手続きに関して、“時間を要する”、“使用料を徴収する”、“他の利用との調整に時間がかかる”等の煩雑さを回答している。

土地利用・施設利用時の手続き等の課題

手続きや実際の利用時に不自由さ、煩雑さがあったと回答した例

手続きや実際の利用時に不自由さ、煩雑さがあった
9 (5.5%)
無回答
3 (1.8%)



N=165
単位: 箇所 (%)

施設	課題
公園(公共)	使用料を徴収と言われることがある。(港湾管理担当者によって見解が異なる)
緑地 ビーチ	以前、施設利用の申請を提出してから許可が下りるまで2か月程度かかることもあった。今年度においてはスムーズに許可がおりている。
港湾施設全般	みなとオアシス構成施設の大部分が県所有の土地であり、以下の課題がある ・利用申請書類や手続きが煩雑なことや手続きに時間を要することによるタイムリーなイベントの開催が困難 ・賑わい創出への理解不足による方針の不一致
(回答なし)	施設毎に管理者が異なるので、手続きの方法も統一されておらず、煩雑さなどに差がある。
緑地	臨港緑地での音楽イベント開催にあたり、条例上の規制があったが、現在は規制緩和され設置者の副申により実施できるようになった。
ビーチ	利用許可の際に、他利用予定との重複確認の手間や、場合によっては調整をする必要が生じる
栈橋	担当者の個人的見解により 使用許認可取得がばらつく

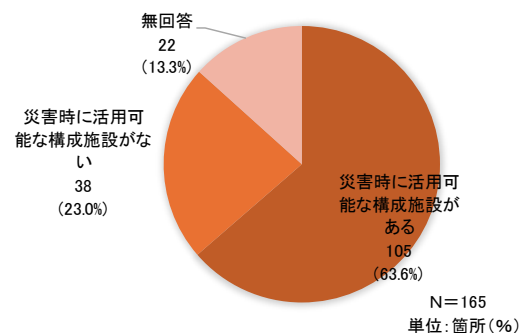
4-2-1. アンケート調査結果 (6)みなとオアシスの防災面の活用

1) みなとオアシスにおける防災面の活用

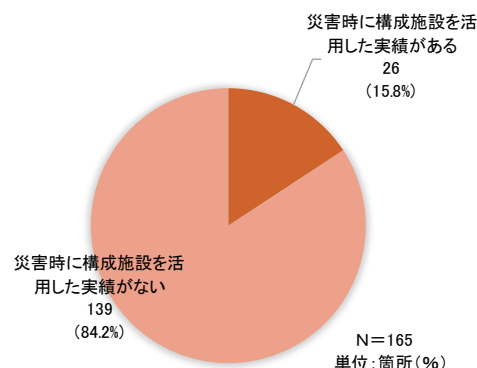
- 『各みなとオアシスのにおける防災面の活用』についてアンケートを実施
- 災害時において、活用可能な構成施設数を回答したみなとオアシスは、105箇所、63.6%である。
- 活用可能な構成施設数は、166施設である。
- これまでの災害発生時において、みなとオアシス構成施設を活用したことのあるみなとオアシスは、26箇所、15.8%である。
- 防災訓練等においてみなとオアシス構成施設を活用したことのあるみなとオアシスは、45箇所、27.3%である。
- 災害時に活用可能であると考えている構成施設の活用可能な用途(一次避難、情報発信、緊急物資輸送、緊急物資保管等)については、活用可能な用途は、「一次避難」が84施設、「情報発信」が28施設、「緊急物資輸送」が45施設、「緊急物資保管」が33施設、そして「その他」が29施設である。

各みなとオアシスにおける防災面の活用

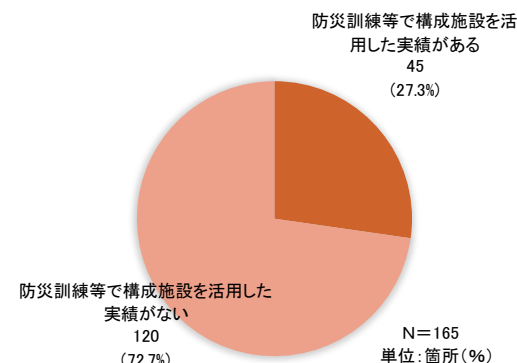
災害に活用可能な構成施設を
有するみなとオアシス



災害時に構成施設を活用した実績
が有するみなとオアシス



防災訓練等で構成施設を活用した実績
が有するみなとオアシス



4-2-2. ヒアリング結果

大項目	小項目	主な意見の概要
みなとオアシスが 目指す賑わい創 出	地域の賑わい創出 にまだ十分な貢献 していない理由	• みなと周辺の人たちには、当該エリアがみなとオアシスの一部であることをある程度認識できているが、市民全体で考えると広く認知されていない。 • 構成施設間の回遊性が十分ではなく、集客人数にも各構成施設間で隔たりがある。
	分類について	• <u>みなとオアシスがどんな施設であるかなかなか伝わりづらいと実感しており、4つの分類(特性)ごとに区分して、みなとオアシスを評価していくことは重要ではないか。</u>
みなとオアシス登録の効果の現状認識		• <u>みなと周辺に立地する企業や行政等が同じ方向を目指し、みなとオアシスの名のもと、みなとまちづくりに参加している。</u> • <u>新しい構成施設がオープンしたことにより来場者が増加。スタンプラリーなどを通じて、既存の構成施設にも、その集客効果を波及させている。</u>
みなとオアシスの 所在自治体の位 置づけ	取組等の予算化	• <u>「ウォーターフロントにおける賑わい創出」を自治体の総合計画に位置付けた上で、みなとオアシスを運営する予算を確保している。</u> • <u>イベントの開催あたり、所在自治体の予算を充当しているが、予算が不足する場合は地元企業へ協賛金を募り取組を継続している。</u>
みなとオアシスの知名度等		• <u>みなとオアシスでのイベントを継続に開催していくことが重要である。</u> • <u>急に知名度が上がることはないため、こつこつとやっていくしかない。</u> • <u>SNSを活用した周知など新しい取組と連携させていくことを考えている。</u>

4. 「みなとオアシス」の評価

4-2-2. ヒアリング結果

大項目	小項目	主な意見の概要
みなとオアシスの運営面	資金源	• みなとオアシスの管理委託料として自治体において予算化している。 • 管理委託をうけている駐車場収入を、みなとオアシスや、それ以外の港湾施設の維持管理等へ充当している。
みなとオアシスの登録手続き	用地、施設の使用手続きの煩雑さ	• <u>相談窓口が一本化できておらず、利用希望者は、施設管理者と所有者へ両者並行して相談しなければならないため、もう少し効率化を考える必要がある。</u> • 町が所有する土地と県が所有する土地が混在している場合には、イベントの際に、町他に、県にも申請が必要となっている。 • イベントの実施が指定管理業務の範囲を超える場合には、県(港湾管理者)に対して行政財産の目的外使用申請を行う必要がある。
みなとオアシスの防災面の活用		• <u>広い用地があることは災害対応には重要であり、全国から集まってくる車両置き場、仮置き場という観点でも広い駐車場は必要である。</u> • 津波注意報や警報の発令時に避難できる高台やその他建築物等、一時避難がしやすい環境の整備が必要になってくる。 • 市民は南海トラフ地震に対しては関心が高いため、<u>みなとオアシスとしてのBCPを策定し、防災訓練の実施といった防災面の役割・機能の確保について準備を進めている。</u>

4. 「みなとオアシス」の評価

4-3. 評価結果（アンケートおよびヒアリング結果から導き出される課題・要因分析）

	アンケート結果	ヒアリング結果	課題・要因分析
知名度向上・ブランド強化	【みなとオアシスの賑わい創出】 ・ <u>みなとオアシスがどういうものなのかわかりにくく、登録したメリットやPR効果が感じられない。</u> ・ <u>各みなとオアシスの賑わいを創出する形態として、「地域の学習、観光等による賑わい【観光】」と認識しているみなとオアシスが多い。</u>	・ みなとオアシスがどんな施設であるかなかなか伝わりづらいと実感。4つの分類(特性)ごとに区分して、みなとオアシスを評価していくことは重要。	【課題】 ・ みなとオアシスの認知度やブランド力が不足 【要因分析】 ・ ボトムアップ型で進めてきた「みなとオアシス」の定義やコンセプトがわかりにくい ・ 一部の港湾周辺だけの取組では、集客力やコンテンツが不足 ・ 地域の観光政策・道の駅などとの連携の不足 ・ 地域毎の取り組みでは広報効果に限界
	【みなとオアシス知名度】 ・ 各みなとオアシスでは、標章、登録証、幟、HP等知名度向上に向けた取組を実施している。 ・ しかしながら、一般市民のみなとオアシス知名度は非常に低い。「知名度の低さ」が運営上の課題として一番多く挙げられた。 ・ 一方で、みなとオアシスSea級グルメ全国大会やイベント等を通じて、みなとオアシスの知名度が徐々に高まっているという意見もある。	・ みなとオアシスでのイベントを継続に開催していくことが重要。 ・ SNSを活用した周知など新しい取組と連携。	
人材不足	【みなとオアシスの活動・取組】 ・ 各みなとオアシスの主な活動は「イベントの開催」、「構成施設の施設管理」。 ・ みなとオアシスの指定により、<u>各みなとオアシスを構成する施設間の連携が容易・円滑になり、イベント等の開催が増加する等の効果が見られる。</u> ・ イベント開催により、みなとオアシスの来訪者数の増加、カフェやキッチンカー等の立地も見られる。 ・ 一方、更なるイベント開催に向けては「活動等に取り組む上での人員や、賑わい創出等の企画実施を担当する人材の不足」が多く指摘された。	・ みなと周辺に立地する企業や行政等が同じ方向を目指し、みなとオアシスの名のもと、みなとまちづくりに参加している。 ・ 新しい構成施設がオープンしたことにより来場者が増加。スタンプラリーなどを通じて、既存の構成施設にも、その集客効果を波及させている。	【課題】 ・ みなとオアシスの活動に取り組む運営主体の人員、企画の立案や実行を担当する人材の不足 【要因分析】 ・ 地方部における人口減少 ・ 賑わい創出に必要な活動人口の不足 ・ 民間人材が活用できていない

4-3. 評価結果（アンケートおよびヒアリング結果から導き出される課題・要因分析）

	アンケート結果	ヒアリング結果	課題・要因分析
資金不足	【みなとオアシスの支援】 - みなとオアシスに必要な施設としては、商業施設、駐車場、広場（イベント等を開催できる）などが多く挙げられた。 - 運営にあたって、各自治体などからの交付金等が主な資金源となっている。 - 運営上の課題として、施設整備等の資金への助成、支援、また支援内容の周知が課題としてあげられている。	「ウォーターフロントにおける賑わい創出」を自治体の総合計画に位置付けた上で、みなとオアシスを運営する予算を確保。 - イベントの開催あたり、所在自治体の予算を充当しているが、予算が不足する場合は地元企業へ協賛金を募り取組を継続。	【課題】 - 構成施設の整備等の資金が不足 - 賑わい創出に必要な取組や活動への資金が不足 【要因分析】 - 自立運営へのノウハウの不足 - 支援制度の周知不足 - 支援制度の不足
その他（手続き面・防災面）	【みなとオアシスの手続き（登録面・使用手続き面）】 - みなとオアシス登録手続きでの課題はみられない。 - イベント開催等に伴う、構成施設の使用等手続きは特に問題がないとの回答が多かったが、複数の施設管理者がいる場合の手続きや調整等が煩雑との指摘がある。	相談窓口が一本化できておらず、利用希望者は、施設管理者と所有者へ両者並行して相談しなければならない。効率化を考える必要がある。	【課題】 - 賑わい創出の取組や活動の際に、関係者間の調整に手間と時間を要する 【要因分析】 - 自治体や関係者でのみなとオアシスに関する理解不足 - 施設管理者毎に手続き書類やプロセスに相違がある
	【みなとオアシスの防災面での活用】 - 災害時に活用可能な構成施設を有する「みなとオアシス」は105箇所。 - その一方、災害時や防災訓練等で活用した実績のある「みなとオアシス」は、それぞれ26箇所、45箇所に過ぎない。	- 全国から集まってくる車両置き場、仮置き場の活用という観点でも広い駐車場は必要である。 - みなとオアシスとしてのBCPを策定し、防災訓練の実施といった防災面の役割・機能の確保について準備を進めている。	【課題】 - 災害時や防災訓練等で活用した実績が少ない 【要因分析】 - みなとオアシスの取組が、地域防災計画等に位置づけられていない - 自治体が防災面での活用を想定していない

5-1. 知名度向上、ブランド力向上

■課題：認知度不足、ブランド力不足

- ・登録したメリットやPR効果が感じられない
- ・地元住民や地域におけるみなとオアシスの知名度は非常に低い

■原因：みなとオアシスの定義やコンセプトがわかりにくい

- ・みなとオアシス自体が地方のボトムアップで開始された取組であり、道の駅のような共通した定義やコンセプトがない
- ・各みなとオアシスの一部の港湾周辺だけの取組では、集客力やコンテンツが不足
- ・各みなとオアシスで知名度向上に向けた取組を進めているが、十分な効果には至っていない

■解決策：

① みなとオアシスの分類によるコンセプトの明確化

- ・各みなとオアシスを「商業（販売・飲食）」、「観光・学習」、「地域交流（地元住民向け）」、「海洋性レクリエーション」による4つに分類し、各みなとオアシスのコンセプトを明確にする
- ・HPや案内版等の中でコンセプトやピクトグラム等を明記し、利用者が目的別に検索可能とすることで、一般利用者や教育活動等への利便性や認知度向上を促す

② みなとオアシスの磨き上げ

- ・上記分類分けとベストプラクティスの共有を通じて、各みなとオアシスを磨き上げ

③ 各地方ブロック協議会の積極的な活用

- ・登録の効果やベストプラクティスの共有による横展開、各地方ブロック単位でのイベント活動の推進

5-1. 知名度向上、ブランド力向上（続き）

- ④ 全国イベントの継続的な開催
 - ・（Sea級グルメ全国大会、みなとオアシス・オブ・ザ・イヤー（創設）など）
- ⑤ HP、SNSや広報誌、メディアを活用した広報
 - ・ 広報誌やメディアへの営業（全国PR）、地元や地域キャラクターのコラボ商標によるPR（地域PR）
 - ・ 各みなとオアシスにHPやSNSの整備を促し、かつ地域の観光部局等とも相互リンクすることによりPRの連携強化
- ⑥ 自治体および他の観光資源との連携による取組強化
 - ・ 自治体における観光施策、まちづくり施策への位置付け、また各みなとオアシス運営協議会等への自治体（主に港湾管理者）の参画による連携の強化
 - ・ 「みなと」を核としつつ、道の駅や他の観光資源と連携した地域一体となった取組
 - ・ みなとオアシスを拠点とした、サイクリングや二次交通の充実により広域の周遊を促進

■効果：認知度向上、ブランド力向上

- ・ みなとオアシスの定義やコンセプトが明確化されることで、
- ・ 観光や商業による賑わいのみならず、「海」や「みなと」の学びの場としても活用することで、地元住民や地域における認知度が向上する
- ・ 広域的なPRやイベントによって入込客数が増加し、全国的な認知度やブランド力が向上する

5. 今後の方向性

5-2. 人材不足に対する支援の強化

■課題：賑わい創出に必要な人材の不足

- ・ みなとオアシスの活動に取り組む運営主体の人員不足
- ・ イベント等の賑わい創出に必要な企画の立案や実行を担当する人材の不足

■原因：地方部における人口減少や賑わい創出に必要な活動人口の不足

- ・ みなとオアシスは全国に165箇所（令和6年11月1日現在）あり、市街地だけでなく地方部にも多く存在し、登録をしたものの活動を実施できていない団体も多い
- ・ 行政が運営しているオアシスを中心に、イベントの企画運営をする人材や人員が不足している

■解決策：

① 外部専門家の活用

- ・ みなとまちづくりマイスター（一般社団法人ウォーターフロント協会）、地域活性化伝道師（内閣府）、地域創造力アドバイザー（総務省）、地域周遊・長期滞在促進のための専門家（観光庁）などの活用

② 各地方ブロック協議会の積極的な活用（再掲）

- ・ ベストプラクティスの共有による横展開、各地方ブロック単位でのイベント活動や講演会を実施

③ 民間主導による運営

- ・ 民間主体の協議会形式によるみなとオアシスの運営を原則とし、同運営協議会へ自治体（港湾管理者）が参画することにより手続き等をスムーズに調整

④ 地方整備局等の職員によるイベント等の活動支援

- ・ 直轄事務所によるみなとオアシス活動支援、道の駅等との連携

■効果：賑わい創出に必要な活動人口の確保

- ・ 人材育成やイベント活動人口の増加により、みなとを核とした地域の賑わい創出に必要な取組が継続して行われる
- ・ みなとを核とした地域の賑わい創出の取組が継続することで、みなと周辺の活力が生まれ、地方部の人口増加に寄与することも想定される

5. 今後の方向性

5-3. 資金不足に対する支援の強化

■課題：自主財源の確保、構成施設の整備等の資金不足、賑わい創出に必要な取組や活動の資金不足

- ・ 資金源については、行政からの交付金、補助金にて賄っているところが半数以上占めている
- ・ みなとオアシスは複数の施設で構成されていることが多く、また取組や活動を実施していく中で、新たな施設の整備が必要となった場合、各施設管理者においては整備に必要な予算がない
- ・ イベント等の賑わい創出の取組や活動に必要な資金がない

■原因：自立運営のノウハウの不足、支援制度の周知不足、支援制度の限界

- ・ 物販、イベント開催等を運営する能力・ノウハウが不足している
- ・ 施設の整備等を可能とする支援制度があっても、その存在が知られていない
- ・ みなとオアシスを構成する民間施設を中心に、現行の制度では支援が困難な場合がある

■解決策：

① 外部専門家の活用

- ・ みなとまちづくりマイスターやベストプラクティスの横展開等によりノウハウを共有し、自立的な運営に向けて支援

② 支援メニュー集の再整理と活用事例の周知

- ・ 道の駅の支援メニュー集を参照しみなとオアシス支援メニューの再整理と国から各オアシスへの説明会の開催、また各地方ブロック協議会等での活用事例の周知

③ 地元のニーズに即した支援制度の検討

■効果：賑わい創出に必要な取組や活動の継続

- ・ 物販、イベント等による自主財源の確保や様々な支援制度の活用により自立的運営の確立
- ・ 構成施設の整備等が促進され、活動資金も支援されることで、みなとを核とした地域の賑わい創出に必要な取組や活動が継続して行われる

5. 今後の方向性

5-4. 関係者間の事務手続きの共通化・簡素化

■課題：賑わい創出に必要な取組や活動時の関係者間の調整に時間を要する

- 複数の構成施設、施設管理者が存在している時には、手続きや調整に時間がかかる
- 用地(港湾緑地)や港湾施設の活動時における使用許認可手続きに時間を要する場合ある

■原因：自治体における認識不足、手続きのバラツキ

- 自治体におけるみなとオアシスの認識不足
- 関係者間での調整を共通化していないため、事務手続きが煩雑化している

■解決策：

① 民間主導による運営(再掲)

- 民間主体の協議会形式によるみなとオアシスの運営を原則とし、同協議会への自治体(港湾管理者)の参画による手続き等のスムーズな調整

② 関係者間の事務手続きの共通化・簡素化による調整コストの削減

- 事務手続きに際しての共通様式を新規で整備

■効果：関係者間の調整の簡素化による取組や活動の促進

- 調整コスト(時間)の削減によって、取組や活動が実施しやすくなり、みなとを核とした地域の賑わいの創出が促進される

5. 今後の方向性

5-5. 災害支援機能の強化

■課題：防災面での活用が少ない

- ・ 災害時に活用可能な構成施設を有する「みなとオアシス」は多く存在するが、災害時や防災訓練等で活用した実績は少ない

■原因：防災面での取組を想定していない

- ・ 構成施設やみなとオアシスの取組が、地域防災計画等に位置づけられていない

■解決策：

- ① みなとオアシスの取組等を地域防災計画等に位置づけ
 - ・ 地域防災計画等へ、みなとオアシスの構成施設やみなとオアシスの防災に関する取組を位置づけることを促進
- ② みなとオアシスの災害支援機能の拡充
 - ・ 各地方ブロック協議会等を通じた物資・人員輸送の訓練、セミナー等による活用方法の共有化
 - ・ みなとオアシス間の防災時の相互協力体制の構築

■効果：みなとオアシスの災害支援機能の充実

- ・ 複数のみなとオアシス間における災害時の相互協力体制の構築により、防災時の活用が可能となる

参考資料
